

「自己点検チェックのためのガイドライン」に対応した

**生活介護事業所
就労継続支援 B 型事業所
実践事例集**

平成 31 年（2019 年）

独立行政法人
国立重度知的障害者総合施設
のぞみの園

■はじめに

障害福祉サービスを提供する事業のなかで、通所による日中活動を提供する生活介護事業所、就労継続支援 B 型事業所は、事業所数、利用者数ともに年々規模が拡大しており、平成 29（2017 年）では、就労継続支援 B 型事業所は全国で約 1 万 1 千事業所であり、生活介護事業所も障害者支援施設の生活介護を含めると約 1 万事業所となっています。

国立のぞみの園では、厚生労働科学研究として、平成 29 年度「障害者の福祉的就労・日中活動サービスの実態把握及び質の向上に関する調査研究」、平成 30 年度「障害者の福祉的就労・日中活動サービスの質の向上のための研究」を実施し、障害者の日中活動、福祉的就労の場として中心的役割を担っている生活介護事業所、就労継続支援 B 型事業所についての調査研究を行ってきました。その成果物として、生活介護事業所、就労継続支援 B 型事業所において、障害のある人たちを支援する上での基本的な姿勢や守るべきもの、役割などを示した「自己点検チェックのためのガイドライン案」と、自分たちの支援を振り返るためのツールとなる「事業所の取り組みを振り返るための自己点検チェックリスト」を作成しました。そして、これらの実践を具体化している事例を取りまとめたものとして、このたび「生活介護事業所・就労継続支援 B 型事業所実践事例集」を作成しました。

本事例集を作成するにあたり、研究検討委員の方々や、障害者団体、厚生労働省などより推薦のあった事業所を中心に訪問調査を実施しました。いずれも、障害福祉サービス事業所として利用者を主体とした細やかな支援と、社会参加の機会や地域とのつながりを保障した取り組みを実践しており、自己点検チェックリストに示す実践を具現化している好事例として選定いたしました。

本事例集が、全国の生活介護事業所、就労継続支援 B 型事業所の参考となり、障害のある人たちの生きがいややがいの創出に貢献できることを願っております。

■本事例集の留意事項

- 本事例集は、平成 30 年度「障害者の福祉的就労・日中活動サービスの質の向上のための研究」において実施した訪問による事業所ヒアリング調査（33 事業所実施）の内容に基づき、25 事業所の事例について作成しています。
- 本事例集では、生活介護事業所のうち、障害者支援施設の日中活動の場である生活介護を「入所系」と記載します。
- 生活介護と就労継続支援 B 型両事業を行う多機能型事業所については、特徴的な事例として、いずれかの事業を中心に示しています。
- 掲載された内容は、平成 30 年 9 月から平成 31 年 3 月までに行った調査に基づいており、生産活動による収入等は平成 29 年度、利用者数等は平成 30 年 9 月の状況としています。

●目次について●

- それぞれの事業所の特徴を、「多様な人たちを支える」「充実した日中活動を提供する」「社会参加を目指す」の3つのカテゴリに対応する事業所として示しています。それぞれの事業所には、特に合致するカテゴリに「●印」をつけています。
- 「自己点検チェックリストのためのガイドライン案 対応項目」では、「自己点検チェックリストのためのガイドライン案」のなかで、事業所の特徴が主に対応する項目を示しています。
なお、対応項目は以下としております。

■生活介護ガイドライン案 ※項目では「生」と表記

「1. 総則 (3) サービスの提供に当たっての基本的姿勢と基本活動 ②基本活動」より

- ア) 自立支援と日常生活の充実のための支援
- イ) 創作的活動
- ウ) 生産活動
- エ) 利用者の心身の状況に応じた支援
- オ) 障害の状態像に応じた支援
- カ) 社会参加・地域交流の機会の提供
- キ) 地域の状況やニーズに応じた支援
- ク) 社会生活のための支援

■就労継続支援B型ガイドライン案 ※項目では「就」と表記

「1. 総則 (3) サービスの提供に当たっての基本的姿勢と基本活動 ②基本活動」より

- ア) 自立支援と日常生活の充実のための支援
- イ) 生産活動及び工賃の向上
- ウ) 利用者の特性や状態に応じた支援
- エ) 地域の状況やニーズに応じた支援
- オ) 生産活動を通じた地域における経済活動のための支援
- カ) 社会生活のための支援

●事業所紹介について●

- 前半は、「事業所の特徴」「利用者の状況」「利用者の支援、活動等で工夫されている点」として、訪問による事業所ヒアリング調査の内容に基づき作成しています。
- 後半は「事業所より」として、事業所が主体となって回答していただいた内容に基づき作成しています。
- 「課題項目に対する状況や対応」は、平成29年度「障害者の福祉的就労・日中活動サービスの実態把握及び質の向上に関する調査研究」において実施した全国の事業所を対象としたアンケート調査の結果より、多くの事業所で課題として挙がっていた「利用者の高齢化」「障害の重度・多様化」「送迎支援」「人材確保／人材育成」「利用者の確保／利用率の安定」「運営（事業継続のための取り組み）」「外部評価の取り組み」を項目としています。

生活介護事業所・就労継続支援 B 型事業所 実践事例集

目次

No.	事業所名	運営主体	事業	頁	★カテゴリー	多様な人々を支える	充実した日中活動を提供する	社会参加を目指す	自己点検チェックのためのガイドライン案
					★キーワード	高齢者 医療的ケア 行動障害 多様な障害	高い工賃 就労 創作的活動	居場所作り 地域貢献 地域とのつながり	対応項目
■ <u>健康に、いきいきとすごしたい</u>									
1.	朋	社会福祉法人 訪問の家	生活介護	1		●		●	生 ア、エ、カ、ク
2.	ひだまりいろ	社会福祉法人 中野社会福祉協会	生活介護	5		●	●		生 ア、エ、カ、ク
■ <u>自分に合った環境ですごしたい</u>									
3.	氷川学園	社会福祉法人 清流会	生活介護 (入所系)	9		●	●		生 ア、エ、オ、ク
4.	ライフサポートはる	社会福祉法人 はる	生活介護	13		●	●		生 ア、オ、カ、ク
5.	野坂の郷 第2事業所	社会福祉法人 ウェルビーイングつるが	就労B / 生活介護	17		●	●		就 生 ア、ウ、オ、カ ア、ウ、オ、キ
6.	青い空	NPO 法人 脳損傷友の会高知	就労B	21		●	●		就 ア、ウ、エ、オ
7.	ともしび	NPO 法人 ともしび	就労B / 生活介護	25		●	●		就 生 ア、ウ、エ、オ ア、エ、オ、キ
■ <u>働きたい、お金をかせぎたい</u>									
8.	ワークショップ SUN	社会福祉法人 すずらんの会	就労B	29			●	●	就 ア、イ、エ、オ
9.	ピアファーム	NPO 法人 ピアファーム	就労B	33			●	●	就 ア、イ、エ、オ
10.	Do やまびこ 田村事業所	社会福祉法人 やまびこ会	就労B / 生活介護	37		●	●		就 生 ア、イ、エ、オ ア、エ、オ、カ
11.	セルフ箸蔵	社会福祉法人 池田博愛会	就労B	41			●	●	就 ア、イ、エ、オ

No.	事業所名	運営主体	事業	頁	★カテゴリー	多様な人々を支える	充実した日中活動を提供する	社会参加を目指す	自己点検チェックのためのガイドライン案
					★キーワード	高齢者 医療的ケア 行動障害 多様な障害	高い工賃 就労 創作的活動	居場所作り 地域貢献 地域とのつながり	対応項目
■ いろいろな活動をしたい									
12.	たんぼぼの家アートセンター-HANA	社会福祉法人 わたぼうしの会	生活介護 ／就労B	45			●	●	生 就 ア、イ、カ、ク ア、ウ、カ、ク
13.	ぬか つくるとこ	株式会社 ぬか	生活介護	49		●	●		生 ア、イ、カ、ク
14.	福祉創造スクウェアすぷら	社会福祉法人 県央福祉会	就労B／ 生活介護	53		●	●		就 生 ア、ウ、エ、ク ア、オ、カ、ク
■ 安心して過ごしたい、仲間をつくりたい									
15.	カラコネオフィス	NPO 法人 カラフル・コネクターズ	就労B	57			●	●	就 ア、イ、エ、オ
16.	ほっとステーション ぼてと/Job ステーションぼてと	NPO 法人 ひやしんす	就労B	61			●	●	就 ア、ウ、エ、オ
17.	ライフサポート・ラヴィ	社会福祉法人 蒼溪会	生活介護	65		●		●	生 ア、エ、オ、キ
■ 高齢になっても通いたい、働きたい									
18.	ふみだす	社会福祉法人 伊達コスモス 21	生活介護 ／就労B	69		●		●	生 就 ア、エ、カ、ク ア、イ、エ、オ
19.	パン工房いそっぽ	社会福祉法人 栗原秀峰会	生活介護 ／就労B	73		●	●		生 就 ア、ウ、エ、オ ア、イ、エ、オ
20.	アンジュ	社会福祉法人 原町成年寮	生活介護	77		●	●		生 ア、ウ、エ、オ
■ 地域のなかで生きがいを見つけたい									
21.	日中支援センター 八兵衛・十兵衛	NPO 法人 楽笑	就労B	81			●	●	就 ア、イ、エ、オ
22.	ヴィ長屋	社会福祉法人 ドリームヴィ	就労B	85			●	●	就 ア、イ、エ、オ
23.	いにしき	NPO 法人 Re-Live	就労B	89			●	●	就 ア、イ、エ、オ
24.	あすなるホーム	社会福祉法人 燦々会	就労B	93			●	●	就 ア、イ、エ、オ
25.	なのはな園	社会福祉法人 幸喜会	生活介護 (入所系)	97		●		●	生 ア、エ、キ、ク

朋

—重症心身障害の人たちを支え、誰もが暮らしやすい地域をつくる—

神奈川県横浜市／社会福祉法人訪問の家

■事業所の特徴

横浜市栄区に所在。利用者のほぼ全員が重症心身障害者であり、医療的な支援も含めて支援を行っている。元々は横浜市立小学校の訪問学級と母親学級が母体となり、学校卒業後も通える場、集える場をとの願いと運動の結実として、昭和 61（1986）年に「朋」が開設された。開設当時から利用者のほとんどは重症心身障害者であり、医療的な支援が必要な重度の障害がある人たちを地域のなかで支援する事業所として先駆的な活動を行なっている。現在法人の事業所として、生活介護が 5 か所、共同生活援助が 13 か所あり、障害が重い人たちの地域生活を支えている。



地域にて空き缶回収

■利用者の状況

利用者のほとんどがなんらかの医療的ケアを必要とする重症心身障害者といわれる方々。定員 40 人、現在利用者は 40 人で、区分 6 の人が大半である。

●年間総売上高（平成 29 年度年間の総収入）

313,470 円（生産活動での売り上げ）

●利用者平均工賃（平成 29 年度年間の平均月額）

250 円（年 1 回、1 人 3,000 円支給）

●日中活動の内容

- ・自主製品（クッキー、どら焼き、ハーブソルト、ジャム、和紙製品等）製作及び販売
- ・近隣宅への空き缶回収及び缶プレス
- ・バンド活動、地域イベントへの出演
- ・近隣の保育園、小学校、中学校との年間を通じた交流
- ・その他（地域で活動する音楽グループ等によるミニコンサート、地域自治会との協同事業として園庭のみどりアップとオープンガーデン、地域行事への参加等）

■ 利用者の支援、活動等で工夫されている点

言葉での意思表示が難しい利用者が多いが、一人ひとりの表情やからだの動きなどの表現を大切にしながら、一人ひとりにあった支援やプログラムを提供している。日中活動は、「だいち」「ひびき」「ぎんが」「つばさ」の4グループがあり、クッキーやハーブソルトの製造や、和紙づくりなど、生産活動も行っている。また、外出プログラムや、事業所内のホールでの地域交流の活動などを積極的に行ない、利用者が地域とつながれる場を創出している。

事業所は住宅街のなかにあるが、事業所が地域に溶けこみ、住民との交流がなされている。特に、隣接する小学校や中学校との交流は長年続いており、利用者と生徒が交流する貴重な機会となっている。



クッキーづくり

—事業所より—

■ わたしたちのセールスポイント

- ・メンバーのほぼ全員が重症心身障害者であるが、表情その他共に過ごす中で汲み取られる本人の希望から、活動内容を検討し、実施している。
- ・本人だけでの作業的な活動は困難だが、表情や視線から意欲を確認しながら、手添え等でスタッフやボランティアと共に行う。
- ・活動を媒介に、地域の方々とメンバーが実際に関わり合うことをめざしている。

■ 利用者の支援で工夫していること

- ・毎日の健康状態の確認に加え、注入や排痰等、活動に入る前に、まず身体のコンディションを整えることを行う。
- ・身体の変形、拘縮等が著しく、通常はリクライニングさせた車いすを使用するか、寝た姿勢が多いメンバーだが、作業的な活動の際は、スタッフが抱きかかえて手元に視線を向けやすい姿勢を作ったり、本人が自力で動かせるわずかな動きで作動するスイッチなどの機器を使用し、できるだけ本人が実感できるようにする。
- ・活動中の本人の様子が、周囲にも伝わるように、スタッフ同士やその時関わった地域の方等とも声を掛け、確認し合い、それ（本人の気持ちが相手に伝わっていること）が本人にも返っていくようにする。



オープンガーデンのお店

■ 課題項目に対する状況や対応

利用者の高齢化	<ul style="list-style-type: none"> ・長い年月の間に、法人内外の他事業所への移動や逝去等により、新しいメンバーへの入れ替わりはある。 ・開所当初からのメンバー等、40代、50代の人もあり、加齢と共に、呼吸や摂食状況等に変化が現れている人が多い。
障害の重度・多様化	<ul style="list-style-type: none"> ・もともとのメンバーで、加齢等により状態像が変わり、具体的には胃ろうや気管切開等の医療ケアが必要となった人もいる。 ・最近10年程の間に新規に利用が開始した人は、濃厚な医療ケアを要する人が多い。 ・児童期に重症心身障害児の認定を受けていない、成人以降の事故や難病により重症心身障害児者と同様の状態となられた人も増えている。
送迎支援	<ul style="list-style-type: none"> ・自力で通所できる方はいない。全員が何らかの送迎手段が必要である。 ・事業所でも、車いすが固定できる車両（8台）を所有、支援スタッフの他運転選任スタッフも雇用し、できる範囲の送迎を対応しているが限界がある。 ・医療的ケアの必要な人の場合は、看護師の添乗が必要な場合もあり、可能な限り対応している。 ・事業所による送迎以外は、家族（主に母の運転）送迎または、各自が契約した送迎サービスを利用。
人材確保／人材育成	<ul style="list-style-type: none"> ・常勤職員は法人採用、非常勤は事業所で採用している。常勤、非常勤いずれも、応募が少なく、常に募集をしている状態。必要人員の確保は困難を極めている。 ・法人全体の研修プログラムに加え、事業所独自の研修も実施。 ・メンバーとの関わりから学び、力をつけていけるよう、先輩職員によるOJTを重視している。
利用者の確保／利用率の安定	<ul style="list-style-type: none"> ・横浜市全体で、特別支援学校と福祉施設（卒業後の進路先）、行政等その他の関係機関とで、情報共有の機会を持っており、数年後を含めた重症心身障害児者の利用希望状況を把握している。 ・利用率については、一人ひとりの健康状態や短期入所利用状況により、予測できない要因が多く、利用率はたいへん不安定である。
運営（事業継続のための取り組み）	<ul style="list-style-type: none"> ・33年前の開所時から、横浜市による市単独の加算があり、運営が成り立ってきた。 ・「生活介護」移行後、介護給付費の加算等報酬改定があり、市単の仕組みが変更されてきている。
外部評価の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・外部評価は、導入していない。 ・第三者委員への報告を最低年1回（その他必要に応じて）実施している。 ・日常的に、地域の方々の出入りがあり、“外部の目”は常に意識している。指摘をいただける関係でもあると認識している。

■ 地域とのつながり、連携のための取り組み

- ・33 年前の開所時より、近隣住民を中心としたボランティアグループが立ち上がっている。
- ・地元自治会主催の行事（運動会、夏祭り等）にお声かけいただき、参加を継続している。
- ・近隣小中学校と、年間を通じた交流を続けている。
- ・活動の手伝いや音楽等の特技の披露等、常に、気軽に施設に入りやすい雰囲気心を心がけている。
- ・施設の行事（成人式、ビアガーデン、フェスタ等）に、手伝いをお願いする等、参加を呼びかける。



地域交流のイベント

- ・自主製品の製作と販売等、地域の人と直接関わり合うことができる活動を実施し、実際の関わりの場面では、メンバーの個性や好み、その時の気持ち等が相手に伝わるよう、スタッフはつなぎ役に徹する。

■ 周辺地域の課題

- ・住民の高齢化が進んでいる。元気な高齢者が多く、街の活性化に向けて意識が高く、地域活動に積極的な住民が多い。住民活動への支援は重要。
- ・老老介護や単身世帯、老親と引きこもりの子の世帯等、何らかの支援が必要な住民の存在もあり、助け合える土壌づくりは常に必要である。

—伝えたいこと—

重い障害がある方がほぼ毎日通う「生活介護事業所」は、生活全般、将来についても、本人がどのような生き方を希望しているのか、共に過ごす中で汲み取ることができる、重要な場である。

事業所情報

所在地	神奈川県横浜市栄区桂台中 4-7
TEL/FAX	045-894-4640 / 045-894-4647
事業種別	生活介護
開所年	昭和 61 (1986) 年
定員数/利用者数	定員数 40 人 利用者数 40 人 (平成 30 (2018) 年 9 月 1 日現在)
利用者の障害 (手帳別)	身体 39 人 療育 25 人 精神 0 人
利用者の障害支援区分	区分 6 : 39 人、区分 5 : 1 人
利用者の年齢	平均年齢 32.6 歳

—重症心身障がいの利用者を支える。本人の希望に沿った活動の実践—

岡山県倉敷市／社会福祉法人中野社会福祉協会

■事業所の特徴

岡山県倉敷市に所在。平成 27（2015）年、主に重症心身障がいの方たちを対象とした事業所としてスタートする。現在は約 30 人利用しており、利用者一人ひとりの希望に沿った支援が日常的に行われている。毎月行事を行っており、週に一度しか通わない利用者も居ることから、全員が参加できるようそれぞれの行事を 1 週間かけて行っている。事業所外の活動を多く取り入れ、車椅子利用者の海水浴等も積極的に行っている。施設外の活動を多く取り入れることで、地域の方との関わりを深める機会にもつなげている。年に一度の文化祭では、地域住民を招待して交流を行なっている。

■利用者の状況

定員は 25 人で、利用者は 32 人。重症心身障がいの利用者を含む身体障がいの方が中心で、知的障がいや自閉症の人も利用している。



事業所の外観

■活動内容

●日中活動の内容

毎月の取り組みをあまり決めずにその日ごとに活動を考えることが多い。1 か月に 1 度は行事があり、おおよその行事は、1 週間をかけたで行う。春は花見、5 月は外出企画（ボウリングか買い物のどちらかを選んでもらう）、夏は海水浴、8 月には夏祭り、9 月にお月見会、10 月は運動会、11 月に文化祭、12 月はクリスマス会、1 月には初詣、2 月に節分、3 月にはしめくり週間を設け、1 年を振り返られるような企画を提供している。それ以外にも、日々の活動では健康づくりとして身体を動かす活動、地域交流、ドライブ等の外出、創作活動やクッキングや、レクリエーション等、利用者の好きなことや得意なことを盛り込んで取り組みを進めている。また、看護師による、ブラッシング指導や足浴等の企画の他、作業活動として、利用者が楽しみながら作った作品等を販売し、1 年間の売上げを利用者人数で頭割りした額を、給料として支給している。

■利用者の支援、活動等で工夫されている点

日々の活動に決まりはなく、当日の朝に決まることが多い。個人の思いや希望をどのように形にするかを考えて取り組むことが中心であり、あわせて、本人の身体的な機能訓練を意識して盛り込むようにしてい

る。四季を通じたイベント（入所式、花見、文化祭、クリスマス会、正月、歓送迎会等）に向け、準備から片づけまでを利用者が中心になり、行っている。

秋に開催する文化祭等では、個々の作品の作成にあたり、材料準備、手順、工程等も利用者本人が中心になって決めており、足りないところを支援員が補うという形で行っている。通所している時間に準備、作成、片付けも行うことから、支援員が利用者のいないところで補ってしまうことはほとんどなく、その体験を通じて、充実感を得られることも大切にしている。活動に使用する材料も、廃材や町内や企業から無料で提供された物を活用し、作品が完成すると事業所の広い廊下に展示している。



事業所の中の様子

—事業所より—

■わたしたちのセールスポイント

・日中活動は、利用者の方の自己実現をめざし、一人ひとりの「やりたいこと」を皆で実現したり、自分で決めて挑戦したりする時間を大切にしている。行事などは、企画から準備、片づけまで利用者と一緒にしている。活動の中でも、利用者の方が、力を発揮出来るよう努めている。地域に出向いたり、地域の方が気軽に事業所に足を運んでもらえるような取り組みも行っている。職員だけでなく、身近な周囲の方との触れ合いで、利用者の皆さまに、「ひだまりいろに来て良かった」という気持ちや、活動に参加したことでの達成感を感じて貰えたらと思っている。



活動の様子

■利用者の支援で工夫していること

・利用者の好きなことや得意なことを日々の関わりの中で見つけられるよう、努めている。また、表情（目線や笑顔、ウインク等も含め）や動作（その方が伝えてくれる方法）や発する言葉などを受け止め、何を伝えてくれているのかを理解できるよう努めている。全員で何かに取り組むことが多いが、その中で、一人ひとりの力が、どうしたら発揮されるかを考え、隣りに職員が寄り添っている。その日のバディーを決めて、およそ 2 対 1 で付き添いを行っている。



■ 課題項目に対する状況や対応

利用者の高齢化	<p>現在、平均年齢 29.5 歳と、まだ若い方も多く、活気のある事業所。50 代の方もおり、相談支援事業所の担当者の方や、関係機関の方と連携し、家族の状況を含めた利用者の方の状態や状況を把握する様努めている。必要時は、事業所の方で相談支援事業所の担当者の方に情報を伝え、必要な支援を一緒に検討している。</p>
障害の重度・多様化	<p>開所して 4 年目になるが、利用者の方の状態は、変化して来ている。進行性の障がいのある方は、少しずつ症状が進み、医療的ケアが必要になった方もいる。1 人 1 人の状態も、年齢が上がるにつれて変化が見られ、支援度も上がって来ている。パート看護師を 1 名増員し、医療面への支援を手厚くした。また、職員は、開所時からほぼ同じ職員で担当している。個々の職員の質だけでなく、チーム力を高めていけるよう努めている。</p>
送迎支援	<p>現在車 4 台で送迎をしている。リフト車（キャラバン）が 2 台、車いす仕様（ミニキャブ）の車が 1 台（ラクテイス）があり、基本は事業所からご自宅までの送迎をしている。車いすの方も多いため、送迎出来る人数に限りがあり、ルートを調整したり、時には、車を変更してメンバーを組み直したりしながら対応している。大きな課題は、車内で医療的ケアが必要な方の対応で、送迎に当たることの出来る看護師は 1 名であり、新規の利用者の方は、（車内での医療的ケアが必要な方の場合）ご家族に送迎をお願いしている状況である。</p>
人材確保／人材育成	<p>新年度最初の会議で、事業所の方向性、事業所の考え方、大事にしている視点等を毎年確認している。資料で提示し、同じ内容を何度も確認していくことで、職員も、それぞれの言葉で次の職員に伝えることが出来るようになって来ている。また、支援や介助等の引き継ぎは、スローステップで行い、分からない時には聞けるよう、また、1 人で対応が難しい場合は、チームで支援に当たるようにしている。自信がなく、不安に思う間は、支援や介助を一緒に行っている。また、会議の在り方としては、疑問に思ったことは全員で支援方法等を確認し、1 つの方向性を具体的に決めている。決まるまでに、しっかり意見を出し合い、それに対して 1 つ具体策を決めたら、自分の意見と違っていても、次の会議までは職員で統一して支援を行い、次の会議の時にどうだったかを、全員で振り返り、修正している。支援方法や関わり方等を決めつけてしまうことはせず、いつでも変更が出来ることを確認している。日頃から職員同士の信頼関係を深めることで、言いづらいことこそ、話し合える関係を目指している。</p>
利用者の確保／利用率の安定	<p>定員が 25 名のうち、登録人数が 32 名、平均利用者数がおよそ 15 人前後なので赤字の状態です。4 年目に入っている。利用者の確保に向け、県下の相談支援事業所や、関係機関等に出向き、情報提供させていただくとともに、パンフレットを配布している。また、広報誌の発行だけでなく、今年度は、ホームページをリニューアルし、活動の様子等を写真で紹介したり、事業所の紹介を詳しく掲載したりしている。そして何より、利用者の方が来られた時に、「ここに来て良かった」と思ってもらえるような場所になるよう努めている。</p>

運営（事業継続のための取り組み）	法人内に就労継続支援B型事業所がある。ご家族の方が中心となって立ち上げた事業所で、開所当時から、グループホームを作って欲しいという願いがあった。次のステップとして生活介護事業所を立ち上げ、現在は、どちらの事業所も利用者の方の状況が重度化、多様化してきてこともあり、それぞれの事業所の運営に留まっている状態である。
外部評価の取り組み	今のところ取り組みはなし

■地域とのつながり、連携のための取り組み

- ・法人内に保育園があり、そこを利用している地域の方も多く、法人自体も、地域とのつながりをとても大切にしている。文化行事を1か月に1度は企画し、地域の子どもたちが誰でも参加出来る年中行事を企画したり、学区の小中学校で幼保小中学校とでジョイントコンサートを企画したりしている。
- ・日々の活動の中で、近くの公園に行ったり、紅葉を見に行ったり、神社へ参ったりと、地域へ出向く機会を大切にしている。また、1年に1度は、ひだまりいる文化祭を事業所内で開催している。



■周辺地域の課題

- ・平成30年度、子ども会が解散し、近隣地区の地域の方の高齢化が少しずつ進んでいる。また、事業所の職員駐車場の一部が土砂災害警戒に当たっており、警報が発令されている時には事業所は休みにしている。

—伝えたいこと—

お近くへお越しの際はぜひ、遊びにいらして下さいね。

事業所情報

所在地	岡山県倉敷市藤戸町藤戸 1406-6
TEL/FAX	086-420-0770 / 086-420-0880
事業種別	生活介護
開所年	平成27(2015)年4月
定員数/利用者数	定員数25人 利用者数32人(平成30(2018)年9月1日現在)
利用者の障害(手帳別)	身体24人 療育32人 精神1人
利用者の障害支援区分	区分6:16人、区分4:11人、区分5:4人
利用者の年齢	平均年齢29.5歳

生活介護（入所系）

氷川学園

多様な人たちを支える

充実した日中活動を提供する

一人としての尊厳を守り、笑顔の多い時間を過ごしてもらおう

熊本県八代郡氷川町／社会福祉法人清流会

■事業所の特徴

事業所は山間部に位置し、町内も高齢化・過疎化が顕著であり、高齢世帯、独居世帯が増える中で基本的な生活を送るため、必要な商店まで行く交通の便もない状況である。開園から38年経過し、地域だけでなく利用者の高齢化も顕著であり、地域との交流のあり方も大きく見直すことが求められている。昨年の平成29（2017）年に、最高齢の88歳の利用者を看取っている。障害の重度化・多様化は著しく、高齢・加齢による身体機能・認知機能の低下や加齢に伴う疾病の発症率の増加、その一方で発達障害、自閉スペクトラム症の利用者が一定数在籍している状態である。昨年4月の入所棟立替えに伴い、ユニット型の生活環境を整備し、障害特性や年齢等を勘案して生活全体を通しての支援をスタートさせている。

（入所40名⇒高齢棟10名×2ユニット、自閉棟5名×2ユニット、混在棟5名×2ユニット）

■利用者の状況

知的障害（76人）が主であり、身体障害13人、精神障害13人、発達障害15人が障害を併せ持っている。昭和56（1981）年に入所30人で開設したが、障害の重度化・多様化は著しい。50代が14人、60代が18人、70代5人、80代以上が3人在籍しており、平均年齢は全体で48.9歳入所のみだと56歳であり、最高齢は82歳である。また、障害支援区分は、区分6が50人、区分5が16人、区分4が6人、区分3が4人で、平均区分は5.4である。

昨年、癌で2人（50代）看取っている。家族の支援協力は難しい状況であり、相当な努力が必要である。



事業所の外観

■活動内容

●日中活動の内容

- 高齢棟 20 人を 2 グループ、ユニット（10 人）ごとに日中活動と生活全体を通してプログラムを設定している。ADL・身体機能の保持・低下防止に努め、より一層の QOL の向上を図るを目的として機能訓練・予防リハビリ・創作活動・外出等のプログラムを用意している。
- 生活介護全体の活動グループ
 - ・すまいる班・・・加齢に伴う身体・精神機能共に低下。維持・予防を目指したプログラムを設定。
 - ・すまばれ班・・・残存機能を活かした活動プログラムを設定。本人の好みを配慮した創作活動。
 - ・あおぞら班・・・発達障害を伴う方々に自立（律）的な生活を目指したプログラムを設定。
 - ・サニー班・・・個別活動から得られる充実感と共動することの楽しさが感じられるプログラムを設定。
 - ・ぼれぼれ班・・・知的、身体機能双方に社会体験の機会と機能維持・低下予防を目指したプログラム。
 - ・エンジョイ班・・・働くこと役割を担う活動。畑やりサイクル作業や、地域清掃、創作活動等のプログラム。
 - ・ひまわり班・・・発達障害を伴う方々に構造化された環境のもと個別の活動に取り組むプログラム。

■利用者の支援、活動等で工夫されている点

●生活空間を障害の特性や年齢に合わせたユニット化

作業を止め日中活動内容を再検討し、ユニットごとに日中活動と生活全体を通してプログラムを設定している。さらに、外部の専門職や講師に協力を依頼し、実際の活動場面においてコンサルテーション形式で進めている。一日一日を大切に利用者の尊厳が守られ、少しでも笑顔の多い時間を過ごせるよう努めている。また、事業所内で支援が完結しないよう外出の機会や外部の方々との関わりを大切にしている。



●社会参加、地域とのつながり

入所施設の利用者や地域の高齢化に伴い、グループホームを拠点として地域の祭りに参画し交流を図っている。震災の時には、家族単位での居場所を提供する等行い、今後は地区の各役員の方々と協力して子ども食堂ならぬ地域住民全体を対象とした「おかげさま食堂」の開催を計画したいと考えている。社会福祉法人として職員のマンパワーを活用し障害理解のための講話や体験研修等を実施していく。



■わたしたちのセールスポイント

・年齢を重ねてこられた利用者の方々に、一日一日を大切に尊厳を守られ、日々をより豊かなものにして笑顔で過ごして頂くための環境整備と、高齢化支援に必要な支援者のスキルアップに努めている。

■利用者の支援で工夫していること

●利用者の希望やニーズを把握し実現する、利用者の知識及び機能向上のための工夫。
こまめに声をかけ表情から気持ちをくみ取り、利用者の言動を受け止め、共感するようにしている。また、職員間での利用者の情報を共有し支援に活かしている。

■課題項目に対する状況や対応

利用者の高齢化	利用者が高齢化することに伴い、家族も高齢化している。昨年、2 人の利用者の看取りを行っている。二人とも家族の支援協力はなく「職員による介護と看取り、葬儀から火葬・納骨まで行っている。実際の場面で、医療行為の決定・承諾をしていくが、家族でないことや障害特性の理解を求めることにおいて医療現場の認識に格差があり、相当の努力が必要である。 高齢・加齢に伴う疾病等の知識やスキルを学ぶ必要は大きく、研修や専門家の協力を得てコンサル形式を依頼し、実践に結びつけている。
障害の重度・多様化	利用者の年齢や性格、障害特性、家族背景、成育歴等を勘案して出来る限りの個別対応を行うため、日中活動のグループ分けや生活環境の工夫・配慮を行っている。高齢化のため、献立の個別配慮や身体を動かす機会や入浴の時間も工夫している。
送迎支援	活動時間を充実させるため、基本的には、家族での送迎をお願いしている。家族構成や状況によっては、事業所にて送迎を行っている。（現在 17 人）
人材確保／ 人材育成	学校の就職担当との連絡や訪問で情報交換を行っている。学校での説明はもとよりクナビ・マイナビ・法人 HP を活用し就職に対する広報を行っている。人材育成では、チューター制度の導入や法人内でのスキルアップ研修の開催、事業所外での研修に参加して育成している。
利用者の確保／ 利用率の安定	入所の待機者 33 人。居室の空き状況がなく超過受け入れは無し。生活介護については、今後のスタッフ数の増加により受け入れが可能になれば検討。
運営（事業継続のための取り組み）	支援者のスキルアップが一番の運営安定と考える。また、人材定着に向けて福利厚生の改善にも努めている。適材適所に支援員を配置できるよう積極的に人事異動を行い、社労士、税理士の指導を受けながら運営を進めている。
外部評価の取り組み	現在、取り組みはしていない。令和元（2019）年度に第三者評価を受けるための情報収集を行う予定。

■ 地域とのつながり、連携のための取り組み

- ・資格取得のための実習生を受け入れている。
- ・ボランティア、体験学習等の受け入れ・育成
- ・地域行事への参加
- ・福祉に関する講和・講義・研修等への職員派遣
- ・学園の行事での地域の方々への啓発活動
- ・地域での清掃活動の参加
- ・地域の保育、教育現場との交流
- ・地域の文化活動（グループ、個人）の活用



地域交流～フラメンコを鑑賞

■ 周辺地域の課題

- ・地域の過疎化、高齢化が顕著になってきている。地域との交流のあり方を大きく見直すことが求められる。高齢者から若年層まで、また教育・医療・行政との連携が必要と考えている。

—伝えたいこと—

年齢を重ねられた利用者の尊厳を守り、少しでも笑顔の多い充実した時間を過ごせることを大切に考えている。

事業所情報

所在地	熊本県八代郡氷川町宮原 1 1 1 6
TEL/FAX	0965-62-4081 / 0965-62-4080
事業種別	障害者支援施設 生活介護
開所年	昭和 56 (1981) 年 4 月 (現事業は平成 24 (2012) 年 4 月から)
定員数/利用者数	定員数 40 人 (施設入所) 75 人 (生活介護) 利用者数 40 人 76 人 (平成 30 (2018) 年 9 月 1 日現在)
利用者の障害 (手帳別)	身体 13 人 療育 76 人 精神 13 人 発達障害 15 人
利用者の障害支援区分	区分 3 : 4 人 区分 4 : 6 人 区分 5 : 1 6 人 区分 6 : 5 0 人
利用者の年齢	平均年齢 48.9 歳 最高齢 82 歳

ライフサポートはる

— 自閉症をともなう利用者が安心して過ごせる環境を作る —

佐賀県佐賀市／社会福祉法人はる

■ 事業所の特徴

佐賀県佐賀市に所在。平成 14（2002）年に小規模作業所として開所。障害者自立支援法制定にともない生活介護事業所となった。利用者の多くが自閉スペクトラム症をともなう知的障害者で、特に強度行動障害のある人たちの支援を特化して行っている。日中活動では、生産活動や運動、アート活動なども取り入れている。職員は強度行動障害支援者養成研修への受講などを通して専門的な知識を深め、個々の利用者の特性に合わせた支援を細やかに行っている。また、海外への福祉研修なども積極的に行い、人材育成に努めている。

■ 利用者の状況

自閉スペクトラム症をともなう知的障害のある人が多く利用している。定員 20 人、現在利用者は 19 人で、平均年齢 30 歳と若い年齢層の利用者が多い。



事業所の外観

■ 活動内容

● 年間総売上高（平成 29 年度年間の総収入）

963,597 円（生産活動での売り上げ）

● 利用者平均工賃（平成 29 年度年間の平均月額）

987 円（生産活動）

● 日中活動の内容

- ・作業（下請け）や自立課題を中心に、毎日のプール、ウォーキング、週 1 回のバランスボールなどの運動
- ・週 1 回の個々に合わせた創作活動を行うアート活動
- ・月 1 回のカラオケ、ボウリング、乗馬など、楽しみを取り入れた活動を行っている。

■ 利用者の支援、活動等で工夫されている点

建物内には広く見渡せる活動しやすい場所だけでなく、構造化を取り入れた個別対応をスムーズに行えるように仕切られたブースが複数設置されており、利用者一人ひとりのニーズに合わせた安心して過ごせるような様々な工夫がなされている。

地域とのかかわりでは、町中に事業所を構え、外からも様子をうかがえるような建築になっており、地域に向けてオープンな建物である。地域の資源（プールや乗馬など）を有効に使い、外へ向けた活動をしている。また、地域のイベントやゴミ拾い活動などを通じて、地域と密着した社会を作り上げている。



広く見渡せる活動のスペース



障害特性にあわせて構造化されたスペース

—事業所より—

■ わたしたちのセールスポイント

- ・事業所外への外出（ウォーキング、プール、買い物、近所のゴミ拾い等）の機会を多く取り入れるようにしている。特にプール活動は県営のプールに夏場は毎日、冬場は週3～4回通っている。
- ・年間通しての外出のイベント（野球観戦、サッカー観戦、スケート、一泊旅行）も多く実施している。
- ・「地域の中で」、という法人の理念で、なるべく外へ出るようにしている。

■ 利用者の支援で工夫していること

- ・一人ひとりの障害特性に合わせた個別のスケジュールやパーソナルスペース等を活用して、落ち着いて活動できるようにしている。

■ 課題項目に対する状況や対応

利用者の高齢化	長年利用されている方たちが高齢となり、以前できていたことができなくなってきている。そのため、高齢化への色々な対応として研修を受けたりしている。
障害の重度・多様化	障害支援区分の高い方や、強度行動障害の方たちの利用が増え、支援内容の工夫など支援度が高くなってきている。
送迎支援	朝夕の送迎を行っているが、利用者の方たち同士の相性に合わせた乗り合わせの配慮やご家族の要望により送迎時間の調整を行っている。 送迎はほぼ市内で、往復で1時間は要している。
人材確保／ 人材育成	実習生やボランティアを受け入れ、興味を持ってもらうようにしている。 新しく入ったスタッフには「新人サポーター」という指導担当を付け、スキルアップできるように法人として研修を多く実施している。
利用者の確保／ 利用率の安定	特別支援学校からの実習の受け入れや、見学希望への対応などを行っている。
運営（事業継続のための取り組み）	人材の確保が課題となっている。 ※今後ははるの利用者のニーズで GH をより作っていかねばと考えている。
外部評価の取り組み	特になし

■ 地域とのつながり、連携のための取り組み

- ・夏祭りや、餅つきなどのイベントを通して、地域の方たちやボランティアの方たちと交流を行っている。
- ・月1回、近所のゴミ拾いを実施している。
- ・普段の活動の中で、買い物やプール、乗馬など地域の中に積極的に出ていくようにしている。



■ 周辺地域の課題

- ・住宅や店舗などが並ぶ地域だが、地元の自治会などは高齢化が進み若い世代が入っていない状況。



—伝えたいこと—

地域で生活する障害のある方々の生活・人生・生命の質を維持・向上することを目指して、それぞれの可能性を発見する視点を持ち、それぞれが自己選択・自己決定ができる環境づくりを大切にしています。
ひとりひとりが「自分らしく」充実した毎日を。

事業所情報

所在地	佐賀県佐賀市高木瀬町大字長瀬 1168-1
TEL/FAX	0952-37-7078 / 0952-34-1024
事業種別	生活介護
開所年	平成 28 (2016) 年 9 月 (社会福祉法人設立に伴い指定申請。小規模作業所としての開設は、平成 14 (2002) 年 4 月※育成会 知的障害がメインで)
定員数/利用者数	定員数 20 人 利用者数 19 人 (平成 30 (2018) 年 9 月 1 日現在)
利用者の障害 (手帳別)	身体 4 人 療育 19 人 精神 0 人
利用者の障害支援区分	区分 5 : 7 人、区分 4、区分 6 : 5 人
利用者の年齢	平均年齢 30 歳

野坂の郷 第 2 事業所

一約 7 割が自閉症利用者。利用者のニーズにあわせた環境をつくる一

福井県敦賀市 / 社会福祉法人ウェルビーイングつるが

■ 事業所の特徴

福井県敦賀市に所在する、就労継続支援 B 型と生活介護の多機能型事業所。平成 13（2001）年に敦賀市自閉症児者親の会が設立され、平成 15（2003）年に法人化。知的障害者通所授産事業、デイサービス事業として事業所がスタートした。障害者自立支援法施行にともない平成 21（2009）年に生活介護・就労移行支援・就労継続支援 A 型の多機能型となる。平成 24（2012）年に就労 B 型を開始し、生活介護とあわせて第 2 事業所として現在に至る。自閉症などの発達障害の利用者が多く、法人では県の発達障害児者支援センターの運営を行うなど、専門的な支援を行っている。

■ 利用者の状況

生活介護は定員 15 人で、現在利用者は 17 人。そのうち自閉症の人は 13 人で、全体の 76%にあたる（うち強度行動障害者 5 人）。そのほか重複障害者 2 人、知的障害者 1 人、ダウン症 1 人。就労 B 型は定員 20 人で、現在利用者は 19 人。事業所全体でも、自閉症の人が 7 割を占めている。



事業所内の食堂

■ 活動内容

● 日中活動の内容

■ 生活介護

一般的活動（自立課題、缶つぶし、廃品回収、ペットボトルのラベルはがし、チラシでゴミ箱作成、シュレッダー）

余暇活動（散歩、ドライブ、おやつ作り、工作、リズムダンス、ゲーム、歌の練習、ティータイム）

個別支援（散歩、ドライブ、映画鑑賞、カラオケ、食事、お祭りに参加、買い物、体力作り、DVD 鑑賞など）

■ 就労 B 型（生産活動）

生産活動の内容

パン・クッキーの販売、委託清掃業務、（小鯛のささ漬の）タルの組立、企業の下請け

生産活動の売り上げ：1 千 2 百万円、平均工賃：約 1 万 5 千円。

■ 利用者の支援、活動等で工夫されている点

自閉症の利用者が多いため、障害特性に特化した支援を細やかに実践している。見通しが持ちやすくわかりやすい環境、わかりやすい情報提供を心掛けており、構造化された実践を行っている。生活介護では、仕事や余暇的な活動など多様なプログラムがあり、自閉症の人だけではなく多様な障害などの特性にも対応した支援を行っている。利用者一人ひとりに合わせた個別の支援も行っており、強度行動障害の利用者も複数いるが、それぞれ安心して過ごせる環境を整えている。

就労B型では、利用者の特性やニーズにあわせて、主に自閉症の利用者中心で事業所内で働くことを希望する人たちのグループと、施設外就労や一般就労を目指す人たちのグループの2つのグループに分かれて仕事に取り組んでいる。



スノーズレン

—事業所より—

■ わたしたちのセールスポイント

支援当日の利用者の状況や情報を共有した職員の支援（個別支援記録の工夫）

■ 利用者の支援で工夫していること

- ・自閉症の方が多いため、構造化し、わかりやすい環境、わかりやすい情報提供を心がけている。
- ・意思決定支援にもつながるように、自分自身が、自分で考え、自分で決めることを支援している。
- ・支援者が、良い悪いと決めるような発言はせず、本人の意思を聞き、選択肢、メリット・デメリット、条件等を提案し、本人に決めてもらうようにする。（日々のささいなことでも）
- ・既存の枠に当てはめる支援ではなく、本人のニーズや特性に合わせて、柔軟な支援を行うことをグループ会議の中で確認している。
- ・毎月、全利用者とは面談をし、気持ちや状況の確認、目標のすすみ具合の確認をしている（必要に応じて、月1～4回）
- ・支援している職員間で、支援の時間にその日の状況（情報）を交換するのは難しいため、支援記録の記載内容を一人ひとり工夫して作成し、保護者からの情報や本人の様子、調子の良し悪しなど、時系列的に、また、突起的に記載し、その支援記録を見れば、ある程度本人の状況が分かるような支援記録を作成している。他の職員が見ても、利用者本人に対する見通しが、持てるようになっている。



タルの組み立ての仕事：福井県の嶺南地方（敦賀市・小浜市）では、小さい鯛のタル漬けが、お土産品として販売されており、その「タル」を事業所で作成している

■ 課題項目に対する状況や対応

利用者の高齢化	<ul style="list-style-type: none"> ・生活介護では、62歳の方が、週1回の利用。 ・施設として、まだ、高齢化を強く感じていない。 ・高齢化の対応として、50歳前後から、早めに将来のイメージを、本人や家族と話すようにしている。
障害の重度・多様化	<ul style="list-style-type: none"> ・身体的介護が必要な方もいるため、介護福祉士2名配置している。 ・自閉症の方が多いため、構造化し、分かりやすい環境、分かりやすい情報提供を心がけている。 ・知的には軽度もしくは知的障害がないが、メンタル面の支援の必要な方が増えている。 ・就労B型では特に、毎日利用ができなかったり、短時間利用など、個別の対応をしている。
送迎支援	現在、送迎はしていない。次年度より予定。
人材確保／ 人材育成	<ul style="list-style-type: none"> ・福井県、障害者団体と連携した人材確保 ・人材育成：研修費助成、同法人の発達障害者支援センターと連携した支援体制 ・毎年1人1回以上は、研修に参加している。 ・グループリーダー等、役割と業務を明確にし、自分で考えて動ける支援者育成を目指している。 ・ミーティングで情報共有している。（グループミーティング：月1～2回、リーダーミーティング：月1回、全体ミーティング月1回）
利用者の確保／ 利用率の安定	<ul style="list-style-type: none"> ・市の自立支援協議会のなかの就労支援部会や相談部会で、定員の空き状況を報告している（毎月）。 ・就労B型を退所される方は、年1名程度で、出入りは少ない（長く利用している方が多い）
運営（事業継続のための取り組み）	利用者にアンケートを実施して、社会参加するための活動やイベントのパン販売、レクレーションなどの日を設定し、日々の生活に変化をつけている。
外部評価の取り組み	特になし

■ 地域とのつながり、連携のための取り組み

- ・特に就労B型で、パンの販売、施設外就労などで地域とのつながりがある。施設外の作業や活動を行うときは、事前にマナーや約束の確認をし、気持ちの良いやりとりができるよう支援している。また、月1回、パン販売練習会を実施し、マナー・スキルアップを目指している。
- ・設立が自閉症親の会であるため、子供たちの支援に悩んできた方が多いことや、発達障害者支援センターを法人内で運営していることなど、リアルタイムに自閉症支援の方法を必要とすることが多いため、地域内において、自閉症の専門家の講演会を開催したり、施設に専門家をお招きし意見交換をおこなうなど、自閉症支援の専門家といわれる方たちとのネットワーク作りに力を注いでいる。

■ 周辺地域の課題

地域のイベントなどにパン販売にでかけているが、イベントの開催する時期が重なったり、参加できる職員の数に限られているなど、参加したくても参加できないイベントがある。



パンの販売へ、いざ出発！！

—伝えたいこと—

支援方針として、開所以来、「一人でできる」「見て分かる」というテーマに取り組み、利用者本人が自分の意思で、自分の力で活動できるように工夫を進めている。

事業所情報

所在地	福井県敦賀市桜ヶ丘町 8 番 6 号
TEL/FAX	0770-22-2022 / 0220-25-8588
事業種別	就労継続支援 B 型 / 生活介護 (多機能型)
開所年	平成 16 (2004) 年
定員数 / 利用者数	<ul style="list-style-type: none"> ●生活介護 定員数 15 人 利用者数 17 人 ●就労 B 型 定員数 20 人 利用者数 19 人 (平成 30 (2018) 年 9 月 1 日現在)
利用者の障害 (手帳別)	<ul style="list-style-type: none"> ●生活介護 身体 3 人 療育 16 人 精神 0 人 ●就労 B 型 身体 5 人 療育 15 人 精神 5 人
利用者の障害支援区分	<ul style="list-style-type: none"> ●生活介護 区分 6 : 6 人、区分 4 : 4 人、区分 5、区分 3 : 3 人 ●就労 B 型 区分なし : 7 人、区分 2、区分 3 : 4 人
利用者の年齢	平均年齢 ●生活介護 30.5 歳 ●就労 B 型 30.1 歳

青い空

— 高次脳機能障害の利用者の仕事を支え、地域とのつながりを作る —

高知県高知市 / NPO 法人脳損傷友の会高知青い空

■ 事業所の特徴

高知県高知市に所在。主に高次脳機能障害がある利用者が通所し、仕事を通して地域生活を支えるための活動を行っている。運営主体は NPO 法人脳損傷友の会高知青い空で、高次脳機能障害をもつ当事者および家族に対して、高次脳機能障害についての正しい知識や情報の提供、及び社会参加を促進するための事業を行っている。青い空は、平成 17（2005）年に小規模作業所として開所し、翌年平成 18（2006）年に無認可の精神障害者小規模作業所となり、平成 23（2011）年 4 月から就労継続支援 B 型事業所として運営を開始した。

現在利用者は 28 人。医療、相談、役所等から希望の連絡が入ると、「断らない」ことを基本に支援を行っている。近隣にも積極的に出向き、障害への理解や社会への参加のための働きかけを行っている。

■ 利用者の状況

高次脳機能障害者が利用者全体の 8 割を占めている。その他は、知的障害者や精神障害者など多様な特性のある人が利用している。

年齢は、平均年齢が 48 歳で、65 歳以上の利用者が 4 人おり、高齢の人も多く利用している。



事業所の外観

■ 活動内容

● 年間総売上高（平成 29 年度年間の総収入）

4,268,563 円（生産活動での売り上げ）

● 利用者平均工賃（平成 29 年度年間の平均月額）

15,998 円

● 日中活動の内容

・作業内容は、浄水器カートリッジやガスメーターの解体作業や農作業（野菜の選定など）を実施している。

・平成 27（2015）年度からクリエイティブな作業としてレザークラフトを導入している。

・作業以外にも、高次脳機能に関する勉強会なども利用者向けに行っている。

■ 利用者の支援、活動等で工夫されている点

障害特性から利用者本人とのやり取りや本人の気持ちを受け止め理解することを大切にしている。事故を起こす前にやっていた仕事は難しいことなども面談を通して伝えて理解してもらい、現在の本人がやりたいこと、できることをアセスメントし、それに見合った活動を提供している。賃金を希望する方は請負の仕事をしてもらい、趣味を生かした活動を希望する方は作品を作成し販売を行うなど、様々な活動を提供している。近隣から〇〇をやらないかと言われ取り組む仕事から定期に請け負っている仕事を中心となっている。



レザークラフトの作業の様子

言葉遣いや態度、思っていたことが違うとトラブルに発展する可能性もあることから、仕事面だけではなく生活面も含めて幅広い関りが重要であり、定期的に本人との面談や、医療ソーシャルワーカーと連携を組んで支援をしている。

■ 利用者の社会参加、地域とのつながりで工夫されている点

高次脳機能障害の方は医療との連携もあるが、現在の本人の状況について地域の理解が進むために、住まいの周辺へ障害について勉強会等を通して知識や理解を深めてもらう活動を行っている。

—事業所より—

■ わたしたちのセールスポイント

・作業療法士 2 名・理学療法士 2 名を配置し、障害の特性にあった作業を提供するように努めている。

■ 利用者の支援で工夫していること

・個々の障害特性を考慮し作業配置を行っている。



作業場の様子

■ 課題項目に対する状況や対応

利用者の高齢化	むせこみやすい方にはどの食材がむせやすいのかの説明を実施している。 転倒をしないように、通路には物を置かないようにしている。 重い物を持たせないようにしている。
障害の重度・多様化	最近では他施設から難渋しているケースの紹介があり（社会的行動障害のある方）利用開始になることが増えている。
利用者の工賃	仕事の伸び率よりも利用者の伸び率が増加しており、3年連続で工賃は低下している。
送迎支援	15名前後の方が送迎を利用している（西は土佐市高岡、東は南国稲生）。
人材確保／ 人材育成	研修会には積極的に職員に参加してもらっている。
利用者の確保／ 利用率の安定	障害者相談センターや他施設からの紹介が続いている。
運営（事業継続のための取り組み）	高次脳機能障害に対する啓蒙・啓発活動を実施している。
外部評価の取り組み	高次脳機能障害者の家族および臨床心理士、作業療法士の方に当法人の理事になっていただき、外部からの評価を受けている。

■ 地域とのつながり、連携のための取り組み

- ・知り合いの農家さんから野菜の選定作業の仕事を提供してもらったり、仁淀川町にて楮の栽培を行い、そのなかで地元住民との交流も実施している。
- ・当法人の家族会と合同で花見や新年会を実施している。

■ 周辺地域の課題

- ・重い障害、行動障害のある方を支援する事業所が少ない。

— 伝えたいこと —

当法人は、高次脳機能障害者への支援を模索中です。難渋するケースであっても関わり続けることで、改善していきます。高次脳機能障害者への支援を継続し続けることで高次脳機能障害者支援の啓発になればと考えています。

事業所情報

所在地	高知県高知市神田 462-7
TEL/FAX	088-803-4100 / 088-803-4420
事業種別	就労継続支援 B 型
開所年	平成 23 (2011) 年 4 月
定員数/利用者数	定員数 30 人 利用者数 28 人 (平成 30 (2018) 年 9 月 1 日現在)
利用者の障害 (手帳別)	身体 15 療育 1 人 精神 3 人
利用者の障害支援区分	区分なし : 19 人、区分 2、区分 3 : 3 人、区分 4、区分 5 : 2 人
利用者の年齢	平均年齢 48 歳 65 歳以上 4 人

— 難病の人たちが安心して過ごせる地域と、働ける場所を作る —

佐賀県佐賀市 / NPO 法人ともしび

■ 事業所の特徴

佐賀県佐賀市鍋島町に所在する、就労継続支援 B 型と生活介護の多機能型事業所。特徴として、難病の方を積極的に受け入れている事業所である。もともとは難病患者の会から発足しており、無認可の患者会の佐賀県支部の中で作業所を作ろうという事から会員 5～6 名で、平成 14 年から活動を始めた。生産活動では、ハウス栽培を行っており、シイタケ・キクラゲを栽培し、販売している。また、女性のみ利用者・スタッフで運営している九州で唯一の事業所であり、女性ならではの視点で、女性が働きやすい職場環境を整えている。障害者、難病患者への正しい理解を深め、地域で理解される啓発を行い社会の一員として社会復帰を図る為の支援を提供する事により、市民の誰もが生き生きと安心して暮らしていく事のできる社会の創造に寄与することを目的とする。

■ 利用者の状況

現在利用者は定員 30 人に対して 33 人。利用者の障害は、難病、知的障害、精神障害、身体障害と幅広い。現在難病指定の利用者は 1 人。



事業所の外観

■ 活動内容

● 年間総売上高（平成 29 年度年間の総収入）
約 71,100,000 円（うち就労 B 型の売上：9,680,516 円）
● 利用者平均工賃（平成 29 年度年間の平均月額）
12,300 円
● 日中活動の内容
ハウス栽培では、シイタケ・キクラゲを栽培。空調が効いていて温度も安定している。 5 年前から栽培を開始し、2 年前に現在の場所へ移設。主な仕事として、シイタケ、キクラゲの菌床栽培を行っており、菌床を棚に並べたり、収穫したものをパック詰めして納品まで行っている。

■ 利用者の支援、活動等で工夫されている点

- ・ハウス栽培では、秋～冬にシイタケ、春～夏にキクラゲと時期をずらして1年間を通して収穫ができるように工夫されている。
- ・ハウス栽培だけではなく、新しい事業（信書便）にも積極的に取り組み、工賃の向上に努めている。
- ・内職では、車の部品を取り扱っている。細かな作業では、作業工程がわかりやすいように作業シートを作成してあたっている。
- ・利用者が全員女性であるが、スタッフも全員女性であるため、同性目線で支援にあたることができている。利用される側もスタッフが女性であることから安心できる環境にある。
- ・佐賀市内では、福祉事業所が集まり、「福祉ネット」を展開し、様々な情報共有を行っている。それに伴い行政との橋渡しや、地域への参加も個別の事業所のみで完結せず、ネットワークを作って行っている。施設内にとどまらず、外部への販売会を設けたり、地域のイベントに多く参加することで、地域とのつながりを大切にしている。



シイタケの菌床



販売するキクラゲ

—事業所より—

■ わたしたちのセールスポイント

- ・九州で唯一の利用者・スタッフが女性だけの事業所である。
- ・シイタケ・キクラゲの栽培をハウスを使って行っている。
- ・信書便を平成30年度より行い、安定した収入につながっている。
- ・ミカンの皮むき作業や、内職も行っている。
- ・ふるさと納税への参加。

■ 利用者の支援で工夫していること

- ・その人に沿った支援を第一に行っている。併設の生活介護事業所と就労継続支援 B 型で支援の内容に違いはあるが、難病や障害の種別での違いはない。
- ・難病の利用者に対しては、自分のペースで作業をすすめることを大切に、なるべく工程のなかで手先のリハビリになるような作業を取り入れることを心がけている。

■ 課題項目に対する状況や対応

利用者の高齢化	グループホームを所有しておらず、保護者からも要望が上がってきている。60代の利用者も3人いる。
障害の重度・多様化	難病、知的障害、精神障害、身体障害と幅広い利用者を受け入れている。
利用者の工賃	現在は月平均で約1万2,000円
送迎支援	ほとんどの利用者が送迎支援あり。居住地は佐賀市内の人が多数。
人材確保／ 人材育成	人材確保については現状困っておらず、募集もしていない。主婦の人が働きやすい職場環境にしている。 支援者が女性だけで苦労していることも特になし。
利用者の確保／ 利用率の安定	特別支援学校から入ってくることが多い。
運営（事業継続のための取り組み）	工賃を下げないようにすること。販路を増やして、販売会を多く開催できるようにする。
外部評価の取り組み	特になし

■ 地域とのつながり、連携のための取り組み

- ・地域で餅つきを行ったり、シイタケをご近所に配布したり、地域との交流を大切にしている。
- ・信書便は365日仕事がある。元々シイタケ栽培も365日見ないといけない事業であったということからも、あまり抵抗なく行うことができた。



作業するスペース

■ 周辺地域の課題

- ・佐賀市内には福祉事業所の取りまとめ（福祉ネット）があり、地域のイベントの情報共有や、仕事の情報収集、啓発活動や地域への貢献を行っている。
- ・行政から福祉ネットへ依頼があり、そこから各事業所へ割り振られたりもする。最近では農福連携がなされているが、農家からの賃金の低さが課題となっている。

—伝えたいこと—

平成 25 年に難病法が成立し、難病の方も障害者の枠の中に入っているものの、難病の方々への支援が障害者への支援より遅れていることを痛感しております。福祉サービスを利用できることすら知られていません。

今後の難病の方々への支援が一步でも進んでいくことを期待しています。

事業所情報

所在地	佐賀県佐賀市鍋島町大字森田 2075-1
TEL/FAX	0952-37-8575 / 0952-37-8675
事業種別	就労継続支援 B 型 / 生活介護（多機能型）
開所年	平成 14（2002）年
定員数 / 利用者数	定員数 30 人 利用者数 33 人 （平成 30（2018）年 9 月 1 日現在）
利用者の障害（手帳別）	身体 8 人 療育 17 人 精神 8 人
利用者の障害支援区分	区分 3 : 6 人、区分 2、区分 4 : 4 人、区分 6 : 1 人
利用者の年齢	平均年齢 39 歳 65 歳以上 3 人

就労継続支援 B 型

ワークショップ SUN

充実した日中活動を提供する

社会参加を目指す

— こだわりは「働く」ことを支える。下請け作業中心で高い工賃を達成 —

神奈川県相模原市 / 社会福祉法人すずらんの会

■ 事業所の特徴

神奈川県相模原市に所在する就労継続支援 B 型単独の事業所。運営主体の法人は、昭和 57（1982）年に地域作業所を開設し、平成 2（1990）年に社会福祉法人となった。法人の方針として、「働く」ことに力を入れており、高い工賃の保障や就労につながる支援を積極的に取り組んでいる。ワークショップ SUN は、神奈川県でトップの工賃支給額を支払っており、高い工賃を希望する利用者のニーズに応えている。

■ 利用者の状況

現在利用者数は 21 人で、主に知的障害者が利用している。平均年齢は 38.9 歳だが、作業所時代からサービス利用している利用者が 60 代、70 代となって高齢化してきており、今後の全体的な高齢化も視野に入れて支援を検討している。



事業所の外観

■ 活動内容

● 年間総売上高（平成 29 年度年間の総収入）

27,547,322 円（生産活動での売り上げ）

● 利用者平均工賃（平成 29 年度年間の平均月額）

59,527 円（561 円/時間）

● 日中活動の内容

【施設内班】

企業からの受注作業

・検査、梱包・・・衛生用品（耳栓）やテープ、自動車部品などの検査・梱包

・部品の梱包・・・計量器や治具を使い、小部品の梱包や自動車専用カーテンレールの組み立て

【施設外班】

工業用テープなどの検査梱包作業。法人内の他の事業所の利用者も含めて 10 人ほどが働いている。

■ 利用者の支援、活動等で工夫されている点

主力の作業は、衛生用品（耳栓）や自動車部品の検品・梱包作業である。自分が仕上げた製品には 1 ケースごとに本人の名札をつけ、作業成果が利用者にわかりやすいようにしている。そのことで、本人のやる気と達成感を維持、向上させている。工賃が高いことは、自分の仕事としての意欲もさることながら自分の役割意識や責任感の向上にも役立ち、出席率はとても高い。

課題として、ひとつの作業がずっと続くとはいえないので、現状の作業を行いながら、どのタイミングで新しい作業を取り入れていくかの判断が難しいことがある。また、施設外就労の場もあり、高い工賃も得られることから、利用者が事業所での就労に満足しており、企業に就労したい気持ちになかなかならないことも課題のひとつである。現在、作業所時代から事業所を利用している方が高齢になり、今後の事業所のあり方を柔軟なプログラムを取り入れ、1 時間早く作業を終え、振り返りや体操等を行うことも試行している。

支援者の人材育成として、作業を安定させ工賃を維持させるために、企業との交渉に必要な見積書の書き方など単価交渉ができるスキルを身に付けるように取り組んでいる。

地域とのつながりでは、地元の企業との連携を大切にして、施設外の就労や受注作業の確保につなげている。企業の担当者との関係は重要であり、絶えず何か仕事がないか営業活動をしている。

また、日々の利用者支援を充実させつつ高工賃の支給を目指す為に、加配職員を配置し、その分の人件費の一部として就労支援事業会計（生産活動）から福祉事業会計（訓練等給付費）に繰り入れている。職員配置を充実させることで、作業の維持確保、収益の増加、品質の維持管理を行うことが可能となり、継続した付加価値の高い作業を行えている。

さらに企業に対して就労支援に関わる啓発や支援の一環として、就労の充実、施設外支援による関わり、在宅就業者支援制度の取り組み等を行っている。



作業の様子

—事業所より—

■ わたしたちのセールスポイント

・法人として「働く」ことに力を入れている。施設外就労と施設内作業の 2 班体制をとっている。

■ 利用者の支援で工夫していること

- ・作業の内容や成果などを視覚的にわかりやすく示すなど、作業工程をわかりやすく説明する。
- ・ひとりひとりがやりがいを感じられる仕事（場所）作り。作業の出来上がり製品に名札を付けている。
- ・利用者にとっては魅力のある仕事を心掛けており、出勤率の安定を図っている。
- ・月曜日から金曜日は仕事、土曜日は余暇活動や仕事を続けるための訓練活動を行っている。

～社会参加を目指す取り組みについて～

・就労支援の取り組み

法人全体で取り組み、就労案件を事業所に周知。該当者を法人全体より募り、就労支援課との連携により、一般就労に繋げる動きを積極的に行っている。

・施設外就労取り組み

施設の中だけの利用ではなく、より就労した状態に近い場での作業提供を行っている。

そこでの作業訓練や作業スキル習得、職場でのルールやマナー習得が有効だと考えている。

・在宅就業者支援制度の活用

在宅就業者支援団体登録を行い、作業を発注してもらえる企業に対してメリットが生まれ、かつ継続的な作業確保につながることを目的として、この制度を活用してもらえるよう企業へ働きかけを行っている。

・職員配置について

必要な作業を進めるための職員配置を行うために就労支援事業会計（生産活動）から福祉事業会計（訓練等給付）へ職員人件費を負担し、高工賃を維持している。

◆平成 29 年度実績 収入 27,547,322 円

◆その内、職員人件費の繰入額 10,714,600 円

◆利用者工賃支給額 14,400,430 円



作業室の壁には目標工賃と、「V5達成!!」

■ 課題項目に対する状況や対応

利用者の高齢化	<ul style="list-style-type: none"> ・ゆったりめの B 型：柔軟なプログラム設定を行っている。 ・特別支援学校卒業してすぐの利用者、高齢の利用者は 5 時間で対応している。（1 時間は、作業の振り返りや体力維持の体操等）今後、法人内の別の就労継続 B 型事業所とのすみわけにするのか、SUN の中ですみわけにするのか試行しながら見極めていく。
障害の重度・多様化	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の力が発揮できるような工夫（治具の導入・環境の構造化・視覚的に作業工程を提示するなど）
利用者の工賃	<ul style="list-style-type: none"> ・維持できるよう努力していきたい。高齢化による視力低下に伴い、従来と同じ作業（例えば検品作業）への対応が難しくなる者もいる。高い工賃に見合った仕事が出来なくなったらどう対応するかが課題である。
送迎支援	<ul style="list-style-type: none"> ・最寄駅から事業所間を送迎している。駅までは、全員電車で通っている。
人材確保／人材育成	<ul style="list-style-type: none"> ・非常勤職員も含め、人材確保は困難である。 ・OJT を活用し見積書の書き方、考え方、捉え方等を指導している。 ・法人で新卒職員採用ワーキンググループを設置。
利用者の確保／利用率の安定	<ul style="list-style-type: none"> ・利用率は安定している。

運営（事業継続のための取り組み）	<ul style="list-style-type: none"> ・職員配置の工夫（過配置職員人件費の生産活動収入からの繰り入れ） ・積極的な施設外支援の実施 ・在宅就業者支援制度の活用
外部評価の取り組み	特になし

■地域とのつながり、連携のための取り組み

・取引企業との連携を大切にしている。（特に担当者との関係性は、重要である）施設外就労先の企業には、職員が常駐しており、何か新しく請け負える仕事がないか、絶えず営業をかけている。仕事は永遠にあるものではないので、絶えずどのタイミングで新しい作業を取り入れるのか検討している。平成 29 年度は、8 社と取引している。職員は、仕事の報酬を提案する見積書の書き方（この仕事は〇〇秒かかるから〇円）や、妥当な単価について根拠となる数値を持って交渉するスキルが求められ、営業力についての職員研修を重視して実施している。10 円の単価の物を何個製造したら利用者の工賃が増加するのかを考え、生産効率や隙間時間に何の作業を行うのかなどを常に考えている。

・利用者が地域、社会に参加できるための取り組み：地域清掃、社会福祉協議会、公民館祭りに参加。赤い羽根共同募金。



地域清掃の様子

■周辺地域の課題

・社会福祉法人が行っている就労継続 B 型事業所が少ない。市の担当者会議はあり情報共有をするが、今のところ連携はない。

—伝えたいこと—

工賃だけでなく(生活、自立)「働く気持ち」を支えていくことが大切である。働く喜びが得られる事業所でありたい。

事業所情報

所在地	神奈川県相模原市中央区小町通 2-8-15
TEL/FAX	042-779-8909 / 042-771-7193
事業種別	就労継続支援 B 型
開所年	平成 19（2007）年 4 月 1 日
定員数/利用者数	定員数 20 人 利用者数 22 人（2019年4月1日現在）
利用者の障害（手帳別）	身体 3 人 療育 22 人 精神 1 人
利用者の障害支援区分	区分 3：6 名/区分 4：7 人/ 区分 5：3 名/未判定：6 人
利用者の年齢	平均年齢 38.9 歳 最高齢 71 歳

就労継続支援 B 型

ピアファーム

充実した日中活動を提供する

社会参加を目指す

—農業を通して、やりがいのある仕事と高い工賃、地域の活性化を目指す—

福井県あわら市／NPO 法人ピアファーム

■事業所の特徴

福井県の北端に位置するあわら市に所在する、就労継続支援 B 型単独の事業所。運営主体である法人は、北陸農政局管内の NPO 法人で初めての認定農業者として、農業と農産物販売に特化した就労継続支援 B 型事業を展開している。目標である利用者の平均工賃月額 4 万円を達成し、最近では就労継続支援 A 型事業所から移行する利用者も多く、利用希望は多い。現在法人では 2 か所の就労継続支援 B 型事業所を運営している。

■利用者の状況

定員 20 人で、現在利用者は 24 人。知的障害の利用者が多いが、精神障害や発達障害など多様な障害や、中途障害や引きこもりだった人など多様な人たちを受け入れている。仕事を中心の場であるが、20 代から 60 代の利用者がおり、年齢層の幅も広い。



直売所の「産直市場ピアファーム」

■活動内容

●年間総売上高（平成 29 年度年間の総収入）

43,752,139 円

●利用者平均工賃（平成 29 年度年間の平均月額）

37,872 円

●日中活動の内容

●生産活動の内容

・農産物の栽培

※栽培面積 ナシ 25,014 m²、ブドウ 10,000 m²、リンゴ、プルーン他 7,510 m²、野菜 10,470 m²
保全農地 7,237 m² 資材置き場他 6,230 m² 計 66,461 m²

・農産物の販売

県内スーパー 22 店舗、農産物直売所 6 か所、販売協力福祉事業所 12 ヶ所で農産物の販売

・農産物直売所の経営

事業所に併設した農産物直売所と坂井市三国町駅前に産直市場ピアファーム（就労継続支援 B 型事業所）で農家等 150 団体の出荷者の農産物加工品等を販売

●生産活動以外の内容

メンバー会議月1回、パーカッション月1回（9月コンサート）、年2回のレクレーション（6月BBQ、11月旅行）

■利用者の支援、活動等で工夫されている点

経営理念に「地域の人たちと共に農業の振興、活性化を図る」とあるように、障害のある利用者が畑作や果樹園、産直市場などで働き手となり、地域の産業に貢献をしており、利用者も地域のなかで役割を担い、高い工賃を得ている。「さりげなく あたりまえに はたらく」というスローガンのもと、働きがいのある仕事の環境を生み出すことへの工夫がされている。

—事業所より—

■わたしたちのセールスポイント

- ・農業に特化した就労継続支援B型事業で利用者の高い工賃給与をめざして社会福祉法人より10名の利用者と3名のスタッフで独立分社した。ナシ等の果樹栽培を当初より手がけて、販売も自主販売して収益の向上をめざした。農産物直売所を併設し、収益と利用者の職域拡大を図った。
- ・あわら市の認定農業者になり、耕作放棄地の再生事業を手掛け耕作面積の集積を図った。そうした農地を使って、福井県の農林関係の補助事業を受けてブドウ栽培事業を手がけた。
- ・農産物の販売にも力を入れ、企業が不採算として撤退したスーパーマーケットを就労B型事業所として運営している。

■利用者の支援で工夫していること

★利用者の希望やニーズを把握するための工夫、利用者の希望やニーズを実現するための工夫、利用者の知識及び能力向上のための工夫、など

- ①作業支援～一緒に作業をする。出来ることをしてもらうこと。メンバーには教えて覚えられない苦痛を与えない。スタッフには教えて覚えられない、覚えられないことへのストレスを与えない。できることで作業工程を組立てることで成就感を共有する。
- ②利用者に働く、給料を得ることに自覚を持つようにする。ピアファームでは働くことが基本、それ以外はないことを朝礼や終礼で確認する
- ③熱中症、農業機械のトラブル、利用者同士のケンカ等の事故や怪我防止を最優先にした作業配置、農作業のスケジュールややり方等を可視化と十分な説明をする。野外での活動が多いので、体調管理と理解しながら支援をして強制的な言動はしない。



ナシの摘果作業と選果作業の様子

★農業に特化した事業所として下記の3点に特に気をつけている

- ①収益目標を立てた栽培生産～収益目標を立てて栽培を計画、売先、売り方、調整の方法の検討をしたうえで、栽培にかかる。
- ②販売は栽培の3倍の総力を掛ける～栽培生産しても売れないとダメ。売るための努力を最大限する
- ③農産物栽培生産と販売に特化する～委託加工等はない。農業部門で収益が伸ばせるようにする。

■課題項目に対する状況や対応

利用者の高齢化	企業を退職した方や介護保険の対象だが、少しでも働きたい、工賃給与が欲しいとのことで65歳以上でも利用する方も増えてきた。
障害の重度・多様化	精神障害、発達障がい、知的障がい等の合併症の方、生活困窮、引きこもり、中途障がいの方の利用ニーズが増えてきた。
利用者の工賃	毎年、工賃向上計画に基づき工賃給与のアップを図っている。工賃給与が低いと利用率も下がり、工賃給与が高く、仕事が充実していることが当事業所の売りになっている
送迎支援	街中の事業所なので、自宅から徒歩、交通機関利用が15%、それ以外は送迎となっている
人材確保／ 人材育成	<ul style="list-style-type: none"> ●人材確保 NPO法人で認定農業者、就労継続支援B型事業で募集、農業をしたい若者が応募、千葉、大阪市より移住し就業中 <ul style="list-style-type: none"> ●人材育成 就労支援、農業、販売の現業訓練にて育成、就労支援・福祉については日常的にはスタッフミーティングを週1回ケースカンファレンスを実施して農業を中心とした多様なニーズを持つ人たちの支援について指導をしていく。
利用者の確保／ 利用率の安定	<ul style="list-style-type: none"> ●利用者の確保 当初は就労支援事業を軌道に乗せるため、利用者の確保にこだわらなかった。そのお蔭で月平均工賃を高くていく事業努力で利用者の確保はできている。 <ul style="list-style-type: none"> ●利用率の安定 安定している。10年で契約を解除した方がA型への就職1名、病気、他事業所への移動等3名にとどまっている。但し、精神、発達等の障がいの方が欠勤率が高いので、多少多めに利用希望を受けている。
運営（事業継続のための取り組み）	<ul style="list-style-type: none"> ①スタッフが夢と希望の持てる職場づくり ②見方、考え方を育てていく ③就労事業、福祉支援事業の運営と経営力の向上 ④若いスタッフの管理職登用 ⑤女性が働きやすい職場環境づくり ⑥就労B型事業を通じて地域創生、貢献することを事業目標とする。
外部評価の取り組み	特にしていない

■ 地域とのつながり、連携のための取り組み

- ・農業は地域のつながりがあってできるものであり、特段連携はしていないが、作物をつくり販売することでつながりと連携が達成されている。
- ・農園で働くことが地域に参加していることになり、地域の方から「よくやっている」と褒められることがある。



直売所のスタッフ

■ 周辺地域の課題

- ・高齢化でナシ園、野菜、スイカ等の担い手不足になっている。耕作放棄地が増え、地域特産の果樹や野菜生産が落ち込んでいる。就労支援では、従来は知的障がいの方の利用が多かったが、最近は発達障害、精神障害、引きこもり、生活困窮者の利用ニーズが高まっている。また、就労A型事業から移ってくる人も多くなっている状況になっている。

—伝えたいこと—

農業で地域を耕し育み、障がいがあっても「さりげなく あたりまえに はたらく」ことを実践していきたい。

事業所情報

所在地	福井県あわら市二面 45-19-1
TEL/FAX	0776-77-2930 / 0776-77-2931
事業種別	就労継続支援B型
開所年	平成20(2008)年4月
定員数/利用者数	定員数20人 利用者数24人(平成30(2018)年9月1日現在)
利用者の障害(手帳別)	身体1人 療育19人 精神2人
利用者の障害支援区分	区分判定は受けていない
利用者の年齢	平均年齢44歳



4月・・・ナシの花が咲きます



9月・・・豊水ナシの収穫の時期

Do やまびこ田村事業所

— 地元企業とタイアップし、強みを生かして高工賃を目指す —

香川県高松市 / 社会福祉法人やまびこ会

■ 事業所の特徴

香川県高松市の住宅街に所在する、就労継続支援 B 型と生活介護の多機能型事業所。運営主体の法人は、平成 10（1998）年に小規模作業所として設立された。現在利用者は特別支援学校を卒業後利用する方が多い。生産活動では、自社製品の販路拡大だけでなく企業とタイアップした仕事の展開や、外部の評価を受ける場を設けるなど、積極的に取り組んでいる。

■ 利用者の状況

障害種別は、就労 B 型は知的障害 6 人、身体障害 2 人で、高次脳機能障害の方も利用している。生活介護は重複障害、重症心身障害の方も利用している。養護学校の近くに立地している為、通勤など学校生活の延長での利用が可能であり、バスを使って通勤している利用者も多い。また、平均年齢は、就労 B が 25.5 歳、生活介護が 29.3 歳と全体的に若い。



事業所の外観

■ 活動内容

● 年間総売上高（平成 29 年度年間の総収入）

12,623,202 円（生産活動での売り上げ）

● 利用者平均工賃（平成 29 年度年間の平均月額）

35,156 円

● 日中活動の内容

自社製品・企業請負商品の 2 パターン製造している。

【菓子製造業】

下記商品の、製品企画・製造・パッケージングを、自施設内の製造工場で行う。

○揚げ菓子 うどんさくさく（自主製品・企業用商品） … うどん粉で作った、かりんとう風揚げ菓

かりんとう（自主製品・企業用商品） … 一般的なかりんとう

もちっころ（自主製品） … お餅を揚げて作ったお菓子

○アイスクリーム カップアイス（自主製品・企業用商品） もなかアイス（自主製品・企業用商品）

■ 利用者の支援、活動等で工夫されている点

“地域で働き地域で暮らす”という理念の基、法人全体で仕事を中心とした活動を行っている。就労 B 型では香川の特産品をイメージした商品作りを行い、土産物をお求めのお客様をターゲットにした販路を開拓している。現在、香川県に關係する各サービスエリアや、空港、観光地のお土産物売り場、東京のアンテナショップなどで販売している。また、一般企業とタイアップし、商品提案・販路・パッケージ等は企業、提案に沿った商品製造は事業所が請け負い販売している。小ロットの対応やスポット商品の企画など、一般企業では参入しにくい部分へアプローチできるのが自分たちの強みであり、そこを活かして取り組んでいる。平均工賃は 35,156 円で、5 万円支給されている利用者もいる。

平成 21（2009）年に、「経営品質改善活動」を 1 年間実施し、生活・作業環境の整理整頓や作業部門ごとの原価計算を行なうなど改善を行なった。以後、年 1 回「経営品質改善活動事例発表会」を実施しており、外部講師を招いて評価を受ける取り組みを続けている。

生活介護は、下請け軽作業と洗車・クリーニングの下請けなどを行い、平均 9,190 円支給している。生産活動だけではなく、PT による専門的なりハビリ支援を行うなど、生活支援も重視している。

—事業所より—

■ わたしたちのセールスポイント

仕事を中心とした活動により、ある程度の工賃を得る事ができ所得補償に繋がっている。また、積極的に作業参加してもらう事で、仕事意識・技術の向上につながると共に、自信が付く事で問題行動やこだわりも少なくなるなど精神面への支援にも繋がっている。

○仕事…作業の細分化・機械化を行い、利用者のみで作業ができる環境を作っている。また、自社製品・企業請負商品の製造販売により常に仕事がある状況を作っている。

○生活…プライベートでの生活充実を目的に、年 1 回の日帰り旅行を行っている。家族と離れた生活を始めた時の選択肢の一つとして自分たちで旅行に行ける事を目指し、一般の日帰り旅行プランを中心に、利用者が選択・予約体験をする機会を作っている。



自主製品の製造作業の様子

■ 利用者の支援で工夫していること

○職員がいなくても仕事ができる環境を意識して、現場作りを行っている。

- ・「作業の簡素化・一律化」…工程を、ある程度一律の作り方でできるようにレシピを作成する。
- ・「作業工程の細分化」…障がいや経験値を問わず、作業の一角を担える環境を作る。
- ・「機械化」…商品の安定化、大量生産を行うには必須。また、利用者が仕事に参加しやすくなる。
- ・納品や、外部販売など、事業所外の人との関わりを大切にしている。

■ 課題項目に対する状況や対応

利用者の高齢化	年齢とともに、手の震えなどの身体機能的なものや、簡単な判断力などの認知機能の低下が見られはじめてきている。生活介護の利用という相談があるが、環境が変わる事で精神的な部分をきっかけに更なる認知機能の低下が起こる可能性が高い。ギリギリまで現在の仕事を続けられる方法を模索している。
障害の重度・多様化	昨年度初めて高次脳機能障がいのある方の受け入れを行った。施設の理念に則った形であれば、特に利用者の制限は考えていない。
利用者の工賃	工賃は、常に上げており、今後も上げる予定。作業能力に合わせた工賃評価により、個々のスキルアップや就労 A 型などへの移行に繋がると考えている。
送迎支援	送迎は行っている。 家族との連携・情報共有が必要と考えている。家族による送迎は、職員と家族のコミュニケーションの機会であり、積極的な送迎については考えていない。 ただ、利用者・家族がまだ若いという状況が大前提である。
人材確保／ 人材育成	人材確保…ハローワーク・人材紹介に関係する会社への登録・外国人技能実習制度での外国人労働者の採用準備を進めており、来年度登録準備を行う。 人材育成…動作訓練研修（年 1 回） 経営品質改善活動事例発表会の開催（年 1 回） 全正規職員・一部パート職員が外部での販売に出る事で、営業スキルを身につける。
利用者の確保／ 利用率の安定	・養護学校近くに位置しているため、学校からの実習生等の受け入れを積極的に行っている。また、見学等の受け入れも制限なく行っている。 ・年間での利用率は 90%以上を維持できている。家族との情報共有ができていて、仕事をするという理念を共有できており、病気など避ける事のできない事由以外の休みに対して、家庭と協力した動きが取りやすい事も理由の一つと考えている。また、重症心身障がいのような重度の障がいのある方も利用しているが、体のケアなどのアプローチも重視している事で、大きな怪我や病気になることなく長く利用してもらっている。
運営（事業継続のための取り組み）	常に新しい挑戦を行う事（新商品の開発・販売、現場の改善、新規事業など）
外部評価の取り組み	年に 1 回 経営品質改善活動事例発表会（現在、全 9 回）という研修会を開き 1 年間行った経営や、支援に関する活動について発表する。その際に事業所以外の外部の方（行政・企業・福祉・教育・保護者など）を招き評価を頂く。

■ 地域とのつながり、連携のための取り組み

- 年に1回の地域交流会イベントの開催
近隣の住民の方や、取引先、関係者、県内事業所などの方に来所頂き、うどんの無料接待を行う他、イベントなども行う。
- ・企業とのタイアップによる関係
企業と商品開発に向けた相談・交渉を行ったり、納品などで企業やサービスエリアなどの販売店へ赴くなど、地域と常に関係している。



生活介護での仕事の様子

■ 周辺地域の課題

- 公共交通機関の発達が不十分であると感じる。自力で通う為に、早朝から家を出る方もいる。
事業所の選択肢の幅が狭くなる。
- 精神障がい者への理解が低い印象を受ける。（施設建設に反対運動が起こる様子が見られた）
- 障がい者が地域の中に普通に生活できるためには、まだまだ地域の理解が進んでいない印象がある。
- ヘルパー事業所、GH、SS など、居宅のサポート体制が非常に弱い。

—伝えたいこと—

- ・どんな障がいのある方でも働ける
- ・障がいのある方が主体的に働く環境を作る（職員がやるのではない。）
- ・企業感覚を持つ事、地域との協力が絶対必要

当事業所は基本的に、普通のライフステージをベースに障がいのある人の生活を考えています。養護学校を卒業したら、働くのが普通。そして働いていられる今の生活を長く維持するためにどのようなサポートが必要か？ということで生活支援を考える。そのように日進月歩で進んでいる事業所です。

事業所情報

所在地	香川県高松市田村町 1010
TEL/FAX	087-868-6971 / 087-868-6972
事業種別	就労継続支援 B型 / 生活介護（多機能型）
開所年	平成 18（2006）年 4 月
定員数 / 利用者数	定員数 10 人 利用者数 9 人（平成 30（2018）年 9 月 1 日現在） ※生活介護 定員数 30 人 利用者数 25 人
利用者の障害（手帳別）	身体 2 人 療育 6 人 精神 1 人
利用者の障害支援区分	区分 2、区分 3、区分 4、区分なし：2 人。区分 5：1 人
利用者の年齢	平均年齢 25.5 歳 65 歳以上 0 人

就労継続支援 B 型

セルフ箸蔵

充実した日中活動を提供する

社会参加を目指す

一地域の課題を“ほっとかない”、高い工賃と社会参加を目指す

徳島県三好市／社会福祉法人池田博愛会

■事業所の特徴

徳島県三好市の山間地域に所在する、就労継続支援 B 型と就労移行支援、就労定着支援を行う多機能型事業所。定員は就労 B 型が 50 人、就労移行支援が 6 人で、利用者の大半は知的障害がある方たちである。事業所の方針として、働くことを中心として、働き喜びを感じてもらえることと収入の確保を大切にしており、多様な障害や高齢の方でも積極的に受け入れて仕事を保障している。生産活動は、割り箸生産や弁当、パンの自主製造販売など様々な仕事を行なっている。また、近隣の孤立しがちな高齢者を対象として、宅配サービスを行なう「ほっとかない事業」を実施しており、地域の課題に対して利用者が貢献をする機会をつくっている。

■利用者の状況

定員は、就労継続支援 B 型事業 50 人、就労移行支援事業 6 人。現在の利用者数は、就労継続支援 B 型事業 66 人、就労移行支援事業 6 人の 72 人。利用者の年齢層も幅広く、最年少は 18 歳、最年長は 73 歳で、平均年齢は 46 歳。男性比率が高く、契約者数の内 50 人が男性である。障害種別では、知的障害が 66 人と大半を占めている。障害支援区分では、区分 4 が 17 人、区分 3 が 15 人、区分 6 が 8 人と比較的障害が重い方も利用している。



事業所の外観

■活動内容

●年間総売上高（平成 29 年度年間の総収入）

94,582,985 円（生産活動での売り上げ）

●利用者平均工賃（平成 29 年度年間の平均月額）

25,917 円

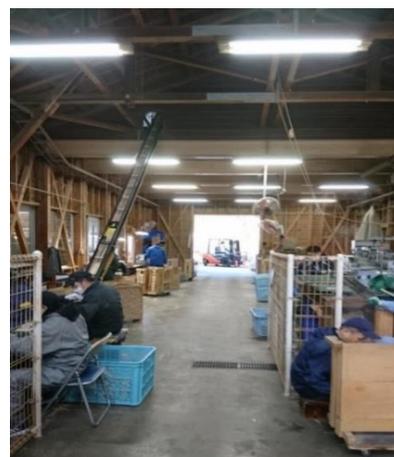
●日中活動の内容

割り箸製造販売 弁当製造販売 喫茶事業 製パン事業 ほっとかない事業
グループホーム食材仕分け事業 リサイクルプラザ施設外作業

■ 利用者の支援、活動等で工夫されている点

事業所が山間地域に所在していることから、仕事や就労先の確保の困難さに直面しているが、そのなかで仕事の確保に努めて、平均工賃 2 万円以上を保障している。割り箸事業では、事業所敷地内に木材の加工を行なう工場があり、事業所内で袋詰め等を行っている。一連の工程の中で多様な役割があるため、障害の程度に応じた作業を確保できている。弁当製造販売は、官公庁や企業を売り先としており、1 日 300 食～350 食販売している。また、利用者や家族に対して意見箱の設置や、顧客満足アンケート（年 2 回）を実施しており、把握した意見を反映して取り組んでいる。

地域とのかかわりでは、平成 25（2013）年より「ほっとかない事業」を始めている。移動手段がなく単身の高齢者が多いため、所在確認と必要な食品、生活用品の買い物支援を行っている。利用者の仕事としては、利用者がローテーションで高齢者宅に訪問し、頼まれた物を購入してもらい、その手数料を収入としている。現在訪問は 30 軒ほどで、利用者にとっても会話する訓練や、身なり、言葉遣いなどを覚える機会となっており、一般就労にもつながった方もいる。



割り箸の加工作業の様子



—事業所より—

■ わたしたちのセールスポイント

・割り箸事業では、工程が多岐に渡り、各工程毎の難易度も様々あるので、障害の程度に応じた工程があり、どの利用者でもどこかの工程には取り組めるので、障害の程度等に合わせて取り組むことが出来る。ほっとかない事業では、高齢者の生活を支える一躍を担っている。

■ 利用者の支援で工夫していること

・利用者の希望やニーズを把握するための工夫、利用者の希望やニーズを実現するための工夫、利用者の知識及び能力向上のための工夫、など利用者からの相談や意見を把握する為の手順を、苦情対応マニュアルとして整備して、相談を受けた場合は利用者個々の特性に配慮し、相談しやすい環境を設定し、相談内容等については、支援記録に記載し、必要に応じて終礼で報告し対応している。意見箱につ

いても、契約時、朝のミーティング時等随時説明を実施し、顧客満足アンケートも年間で実施時期（9月と2月）を定めて実施している。把握した意見等については、改善点に関しては迅速に改善に繋げている。意見により福祉サービスの向上に繋げるため、必要に応じてサービス改善報告書、苦情受付書等で報告し福祉サービス相談委員会に上げて報告している。特に問題等がある事案については特別行動記録に記載し、保護者、職員に連絡報告をした後、改善策を検討し内容を保護者、職員に報告している。



事業所から見える風景

■課題項目に対する状況や対応

利用者の高齢化	状況に応じて作業時間の短縮、作業内容の見直しを図り、個々の状況に応じて対応している。
障害の重度・多様化	利用されている方の中で、デイサービスでの機能訓練との併用を図りながら、機能維持を図りご本人様の状況に合わせてセルフ箸蔵を利用してもらっているケースもある。
利用者の工賃	平成 19（2007）年度に工賃倍増5ヶ年計画が始まり、セルフ箸蔵も同年より取り組んできているが、年々工賃水準を上げることが出来て昨年度の実績としては、25,917円
送迎支援	セルフ箸蔵より、三好市内及び東みよし町内の東方面と西方面と池田町内の3つのルートを設定し送迎を実施している。
人材確保／ 人材育成	各種研修への参加。国家資格及び割り箸、弁当等製造過程に必要な専門的な資格の取得。
利用者の確保／ 利用率の安定	生活支援センターや就業・生活支援センターと連携し、在宅者のニーズに添えている。支援学校の実習の受け入れも積極的に行い卒業後の進路として積極的に受け入れを行っている。
運営（事業継続のための取り組み）	平成 19（2007）年からの工賃倍増計画から現在の工賃向上計画に積極的に取り組み、現在まで実績を落とすことなく平均工賃を向上させている。
外部評価の取り組み	平成 31（2019）年1月30日～31日 第三者評価受信予定

■ 地域とのつながり、連携のための取り組み

・ほっとかない事業・・・過疎地域に住んでいる高齢者の暮らしを障害者が宅配サービスを通じて、生活支援や見守り、話し相手として地域を支えている。

■ 周辺地域の課題

・過疎地域で企業も少なく、それに伴って求人も少ない。交通の便も悪く、求人があったとしても、通勤が困難で就労に結びつかなかったケースもある。

—伝えたいこと—

利用者の方が働きやすい環境を整えて、割り箸は1膳1膳、弁当、パンは1食、1個を、心を込めて作っています。割り箸は全国の皆さんに、弁当、パンは地元の皆さんに毎日お届けし、利用者の方が充実した生活を送れるように日々応援しています。

事業所情報

所在地	徳島県三好市池田町州津井関 1104-11
TEL/FAX	0883-72-2291 / 0883-72-0345
事業種別	就労継続支援B型/就労移行支援（多機能型）
開所年	平成13（2001）年1月1日
定員数/利用者数	定員数50人 利用者数66人 （平成30（2018）年9月1日現在）
利用者の障害（手帳別）	身体5人 療育66人 精神4人
利用者の障害支援区分	区分4：17人、区分3：15人、区分5：8人
利用者の年齢	平均年齢46歳 65歳以上9人

生活介護／就労継続支援 B 型

たんぽぽの家 アートセンター-HANA

充実した日中活動を提供する

社会参加を目指す

—日本初の障害者アートセンター。一人ひとりの表現力を大切に—

奈良県奈良市／社会福祉法人わたぼうしの会

■事業所の特徴

奈良県奈良市に所在。アート、ワーク、ケア、コミュニケーションをコンセプトとした社会福祉法人わたぼうしの会が運営する、生活介護、就労継続支援 B 型の多機能型事業所。「たんぽぽの家アートセンター-HANA」は、日本初の障害のある人たちのアートセンターとして平成 16（2004）年にオープンした。法人の活動は、芸術、文化活動を通じて、障害のあるなしに関わらずさまざまな人たちと交流する市民運動として広がった。日本国内だけでなく、海外までも進出されてきた。昭和 48 年（1973 年）4 月、障害のある子の親が「奈良たんぽぽの会」を創設。市民が応援して広がり、障害のある人たちの自立の家づくり運動が共感を呼び、昭和 55（1980）年にたんぽぽの家、昭和 63（1988）年にわたぼうしの家、平成 10（1998）年にコットンハウス、平成 16（2004）年にアートセンター-HANA を相次いで建設。たんぽぽの会が誕生した翌年、資金集めの一環で「チャリティー絵画展・墨跡展」を行ったとき、奈良県下の若者たちでつくる「奈良フォーク村」のメンバーの一人がボランティアとして手伝い、詩を書くことの好きな障害のある子どもと音楽好きの若者をつなぎ、この偶然が「わたぼうしコンサート」の誕生となった。昭和 50（1975）年 4 月、奈良県文化会館大ホールで、初めての「わたぼうしコンサート」が開催された。



■利用者の状況

生活介護は、定員 30 人に対して利用者 58 人で、年齢層は 10 代から 60 代まで、幅広い層の利用がある。障害種別は、重度の身体障害、知的障害のある人が多く、発達障害や視覚障害、精神障害、また重複している人も多く、多様な障害特性がある。通所利用が週 1 回から安定的に毎日利用している人などさまざまで、他事業所と併用利用している人も数名いる。



■活動内容

●年間総売上高（平成 29 年度年間の総収入）
9,140,000 円（生産活動での売り上げ）
●利用者平均工賃（平成 29 年度年間の平均月額）
12,570 円
●日中活動の内容
生産活動の内容
①アトリエ(原作品の販売、アートレンタル、著作権の販売)
②メンバー(利用者)の講演活動等
③施設の見学者の対応
④外部販売
●日中活動の内容
アトリエ、テキスタイル、陶芸、ショップ(商品の整理、販売)、パフォーマンスWS(ダンス、演劇、人形劇)、学びのWS(新聞WS、リラクゼーション、音楽、お菓子作り、ネイル、アレンジフラワー、カンフー)、見学者対応、展示会ツアー、リハビリ(P T による)、利用者向け勉強会、入浴、歯科診療

■利用者の支援、活動等で工夫されている点

個々の表現活動としてのアート、音楽、舞台から生み出される作品を発表する機会を増やすとともに、障害者アートとして共感と理解の啓発に取り組んでいる。特に脳性まひで重複の障害の利用者にあっても、利用者個々の能力を引き出し、表現できるよう活動として展開される支援にとりくんでいる。

—事業所より—

■わたしたちのセールスポイント

- ・表現活動を中心とした可能性の芸術活動（エイブルアート）を中心とした支援を行っている。作品を商品化して販売したり、発表する機会をもつなど開かれた活動を積極的に行っている。
- ・仕事以外で自己表現できたり、さまざまな人と交流できるプログラム（コミュニティカレッジプログラム）を毎日行っており、利用者が自由に選択することができる。



■ 利用者の支援で工夫していること

・利用者が実現したいことを汲み取るために年 3 回面談を実施し、必要時家族や他事業所などを含めたケース会議などを開催し、ニーズの抽出や実現できるよう支援を行っている。

■ 課題項目に対する状況や対応

利用者の高齢化	50 代、60 代が利用者全体の 2 割を占めている。
障害の重度・多様化	高齢化に伴って障害の重度化、内臓機能の低下がみられる方が増え、医療的ケアの需要も上がっている。具体的には経管栄養の注入、栄養補助食品の摂取、排便の管理などを必要とする方も年々増加しており、筋緊張が強くなる方も増えてきている。また、医療的ケア以外でも個別対応が必要な方も多くなりつつある。
送迎支援	現在、送迎が多い時で 6 コース必要になっている。上記に挙げたように個別の送迎対応が必要な方が 2 名、その他には遠方で片道 1 時間以上かかる方もいる。
人材確保／ 人材育成	<ul style="list-style-type: none"> ・慢性的に男性職員、パート職員ともに不足している。 ・研修など法人全体や就労支援施設独自で行うなど、ケアの技術の研鑽やコミュニケーションスキルを学ぶ機会などを定期的に設けている。
利用者の確保／ 利用率の安定	<ul style="list-style-type: none"> ・利用登録者は増加している。 ・利用率に関しては、高齢化した重度の身体障害のある利用者が、入院などの体調面に大きな変化があった際に変動が大きい。
運営（事業継続のための取り組み）	グループ組織である一般財団法人たんぼぼの家との連携により、外部のさまざまな機関との関係が生まれ、人材の交流とともに多様な情報がもたらされる。
外部評価の取り組み	第三者評価の導入はしていない。

■ 地域とのつながり、連携のための取り組み

地域とのつながり

- ① バザーを年 2 回開催
- ② 地域のお祭や、イベントへの参加
- ③ 六条山カフェの土曜サロンの定期的な開催
- ④ たんぼぼの家子ども食堂の開催。

連携のための取り組み

- ① 地域の町内会への参加
- ② 生活の場である、ホームや有縁のすみかとの連携等
- ③ アート活動を通じて各展示会などの出店、アーティストトーク
- ④ 語りの講演、ダンス、演劇プログラムの実施。



■ 周辺地域の課題

・高齢化などの理由で、県営団地や空き地が増えている。一方、新築1戸建住宅も増え続け、京阪神のベッドタウン化するなど、地域の状況が二極化している。

— 伝えたいこと —

障害の有無に関わらず、さまざまな人たちが豊かに生きる社会の実現を目指し、国内外でネットワークを構築しています。

事業所情報

所在地	奈良県奈良市六条西 3-25-4
TEL/FAX	0742-43-7055 / 0742-49-5501
事業種別	生活介護/就労継続支援B型(多機能型)
開所年	平成19(2007)年4月 (現事業は平成24(2012)年4月から)
定員数/利用者数	定員数30人 利用者数58人 (平成30(2018)年9月1日現在)
利用者の障害(手帳別)	身体34人 療育45人 精神2人
利用者の障害支援区分	区分4、区分6:18人、区分5:17人
利用者の年齢	平均年齢41歳

写真: 衣笠 名津美



—“やりたいことを無理せずできる場所”。アートを通して地域とつながる—

岡山県都窪郡早島町／株式会社ぬか（nuca）

■事業所の特徴

岡山県都窪郡早島町に所在する、生活介護事業所。「ぬかつくるとこ」は、生活のケアを柱として、アートを活用した自分らしい生活をおくることのできる事業所で、支援にあたっては「やりたいことを無理せずできる場所」であることを大切にしている。利用者は年齢も特徴もさまざま、現在は18歳～65歳までの幅広い年齢層の人たちが1日20名ほど通所しており、ダウン症や自閉スペクトラム症、統合失調症の方など多様な障害特性のある人が利用している。昔ながらの街並みにある一角で、蔵を改築して運営している。昼食は毎日一般の飲食を経験した調理師（シェフ）が献立を立て、洋食から和食まで様々な食材を利用して提供しており、一般の方にも予約制でランチを提供している。一般の方を自由に招き入れることで、障害の理解や個性的なアート作品に触れる機会を作り、地域とのつながりや社会参加を実現している。



■利用者の状況

定員は20人。現在40人以上の利用者が在籍している。平均年齢は30歳で、若い人から高齢者まで幅広く利用している。障害種別では、療育手帳所持者が33人で最も多いが、精神手帳所持者も7人おり、障害特性も多様である。障害支援区分は、区分3、4、5が13人、区分6が10人で、幅広い層の利用がみられている。



事業所は蔵を改築して利用（下は従たる事業所）

■活動内容

●日中活動の内容

●創作活動（絵画、粘土、プラ板、刺繍など）、音楽活動（楽器演奏、歌、作詞、作曲）
即興演劇、即興ダンス、ドライブ、散歩、買い物、カフェ巡り、休息

■ 利用者の支援、活動等で工夫されている点

利用者支援において、通所されている利用者は様々な特徴ある利用者（発達障害、自閉症、車椅子利用の方、知的障害等）で、活動に参加する方、ゆっくり過ごしている方と一人ひとりが自由に活動している。日中の活動は、3カ所にわかれて絵画、踊り、音楽活動、課題作業等を行っていた。また、多様な障害特性のある人を支援するにあたり、隣接する道路を挟んだ一軒家を借用し、従たる事業所として活動をしている。支援員は、利用者へ寄り添う支援、遠目から見守る支援、一緒に活動する支援と様々だが、利用者のやりたいことを障害があるがゆえに手助けを行い、利用者が「ぬか」にきて、楽しめる1日を提供できるような支援を行っている。

室内はバリアフリーに改築されており、車いすの利用者も部屋からの移動はスムーズに出来ていた。利用者には自由に絵を描いてもらうことを基本としており、マジック書きや色付け等、スタッフが付かなくてもアートを完成させ、絵画展等にも出品している。制作品をブランドにしている人もおり、製作品を売ることについては個人が契約し、報酬も個人へ還元される。

事業所がある町は近隣に事業所が少なく、「ぬか」を利用したいが定員を超えている状況もあり、町外の事業所を利用されている方も多い。送迎支援に係る負担が増えてきていることが課題である。

制作品を地域で開催されるマルシェで販売することで、事業所をアピールすると共に、利用者のやる気や製品の付加価値を高めており、こだわって作っている食事を地域住民にも有償で提供することで、徐々に評判が上がることで、地域住民を事業所内に呼びこむことにつながっている。



—事業所より—

■ わたしたちのセールスポイント

・表現活動（創作、音楽、ダンス、演劇）を中心に利用者の好きな活動を自由にしてもらっている。また利用者が必要であれば、何もしない事も活動の一つとして捉えている。

■ 利用者の支援で工夫していること

・障害特性上、必要な配慮と支援、環境整備を行い、そういった支援を行なった上で、利用者個々がやりたい活動をしていく。無理強いせずやりたくない事はしなくて良い事を前提としている。

・アート活動については、「教えない」ことを基本にしており。素材は様々なものを提供するが、表現においてはその人個人から生まれるものに極力職員の意図を入れない事を心がけている。



■ 課題項目に対する状況や対応

利用者の高齢化	1年前に介護保険に移行した利用者がいたが、重度の自閉傾向があったため、高齢者施設、ケアマネ、相談支援事業所等の連携を図り時間を掛けて、スムーズな移行が行うことができた。
障害の重度・多様化	精神障害の方の利用ニーズが増えている。情緒の変動により来たり来られなかったりするが、個人の心身の状況の把握し他機関（医療機関を含めた）との連携が必要不可欠である。個人の日中の過ごし方も、短時間利用の保証をすることで長期利用ができてきている方もいる。
送迎支援	8割9割の人が送迎を希望されている。車の台数を考えるとギリギリでまわしているのが現状。スタッフの送迎による負担、ガソリン代、車は消耗品なのでリース対応をしているが経費がかなりかかってしまうのが課題。
人材確保／ 人材育成	社内研修を不定期に実施。できるだけ、広い視点で物事が見られるように期待を込めた研修内容にしている。
利用者の確保／ 利用率の安定	活動内容の充実、スタッフが楽しんで働くことで現場の雰囲気が変わり、利用者が来たいと思ってくれる場所になっていく。それが利用者の確保に繋がる。
運営（事業継続のための取り組み）	スタッフのモチベーションを保つために、外部の人との関わりが重要になってくると考える。ランチを通じて地域の方に来てもらうのも利用者との関わりだけではなくスタッフとの関わりも大事と考えての事で、施設病にならないために一般の方に見てもらう事も大事だと考える。
外部評価の取り組み	特になし

■ 地域とのつながり、連携のための取り組み

- ・地域の祭りに参加、近所の幼稚園と交流、早島地区の中学校との ESD 活動の一環としての交流、民生委員の協力のもと事業所内の行事を実施。
- ・周年記念として地域に解放した独自のイベントを開催など行っている。

■ 周辺地域の課題

- ・若い世代の移住も増えているが、高齢化も進んでいる。
- ・町内のハード（福祉事業所）は少なく、町内の障害者は町外の事業所に通われている方が多い。



—伝えたいこと—

多様な個性ある人たちが来られるなかで、事業所も多様性と個性を求められる時代が来たと感じています。

「何ができるか」ではなく、「何がしたいか」を大事にしていきたいと思っています。

事業所情報

所在地	岡山県都窪郡早島町早島 1465-1
TEL/FAX	086-482-0002 / 086-482-0002
事業種別	生活介護
開所年	平成 25 (2013) 年 12 月
定員数/利用者数	定員数 20 人 利用者数 48 人 (平成 30 年 9 月 1 日現在)
利用者の障害 (手帳別)	身体 8 人 療育 33 人 精神 7 人
利用者の障害支援区分	区分 3、区分 4、区分 5 : 13 人、区分 6 : 10 人
利用者の年齢	平均年齢 30 歳



地域住民にも提供しているランチ

福祉創造スクウェア・すぷら

— 多様な障害がある利用者の多様なニーズに応える支援 —

神奈川県大和市 / 社会福祉法人県央福祉会

■ 事業所の特徴

神奈川県大和市に所在。運営主体の法人は、神奈川県内 11 市に 110 を超える事業所を運営する大きな社会福祉法人。そのなかで、福祉創造スクウェア・すぷらは平成 28（2016）年に開所したばかりの新しい事業所で、就労継続支援 B 型、生活介護の多機能型事業所である。事業所は明るく開放的な建物で、日差しがステンドグラスに反射して心地よい印象が感じられ、また様々な活動に取り組めるよう利用者や支援者の動線を考えての可動式の壁や見通しの良い窓の配置、利用者が穏やかに安心して過ごせるようテラスや中庭や構造化した環境も整備してある。地域住民にも開放しており、地域とのつながりを大切にしている。



事業所の外観

■ 利用者の状況

肢体不自由の利用者、知的障害、精神障害に、重症心身障害や、重度の自閉症の方など、幅広い障害特性の人たちが利用している。

■ 活動内容

● 年間総売上高（平成 29 年度年間の総収入）
5,000,564 円（生産活動での売り上げ）
● 利用者平均工賃（平成 29 年度年間の平均月額）
4,539 円
● 日中活動の内容
● 生産活動の内容
① パソコンを使ったホームページの製作
② パソコンのキッティング（初期設定）
③ Microsoft word および Excel の学習
④ ステンドグラスの製作および販売、体験教室の実施
⑤ さき織りなどの軽作業
⑥ 施設内の清掃や給食の準備、後片付け
従たる事業所の「ダン・デ・リオン」は小田急江の島線桜ヶ丘駅近くにあるレストランで、30 年近い歴史がある。店舗は 30 席ほどあり注文を取るホールの仕事や、厨房内の仕事も行っている。

■ 利用者の支援、活動等で工夫されている点

利用者にとって魅力ある事業所にするために、パソコン作業の充実、スタンドグラス、軽作業の充実、アクティビティやトランスフィットネスを開催している。利用者の確保と仕事の受注という目的で IT 企業と連携して仕事をするプロジェクトを立ち上げたり、ホームページ制作とアクセシビリティの検査については講師を招いて研修している。専門家を導入してのスタンドグラス、アクティビティ、トランスフィットネスを開催することで利用者の満足感を充足させるだけでなく、職員のスキルアップにもつながっている。

また、重度の自閉症の利用者支援のため、活動場所やトイレや食堂等構造化を行い体験の幅が広がるようにしている。近隣の病院と連携して、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士を派遣してもらい、支援へのアドバイスをもらうことで日頃の支援に活かしている。

地域とのつながりは、畑の跡地に事業所を建設した経緯もあり、地域の方々にとっては事業所があることで街灯がつき地域の安心・安全につながるととても好意的に受け入れてもらっている。事業所のイベントにも自治会あげて運営に協力してもらっている。また、事業所で民生児童委員主催の介護予防の体操教室やスタンドグラス体験教室を開催し、場所だけでなく講師のマンパワーの提供を行っている。



スタンドグラスの制作風景と作品



—事業所より—

■ わたしたちのセールスポイント

- ・パソコンを使う作業がとても需要が多く、Microsoft word、Excel の学習、ホームページを製作、フォトショップや illustrator などのソフトを使用してイラストを描くなど、大変人気がある。
- ・スタンドグラスの作成は、毎週月曜日に体験学習をしており、地域の方などが直接スタンドグラスを体験していただいている。
- ・近隣の病院と連携して、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士の方を派遣してもらっており、今までできなかったことが出来る様にアドバイスをもらっている。
- ・毎週木曜日には、アクティビティの実施、金曜日は、トランスフィットネスを実施して汗をかいている。
- ・従たる事業所のダン・デ・リオンでは、地域の方が来やすく入れるようなレストランになっており、多くのお客様がご利用されている。

■ 利用者の支援で工夫していること

利用者の確保と仕事の受注と言う目的で神奈川県海老名市の IT 企業と連携して仕事をするプロジェクトを立ち上げた。既に会社訪問を 3 日に分けて実施して、会社の様子を利用者が見て体験してもらっている。まずは、ホームページの制作とアクセシビリティの検査について会社より講師を招いて研修をする予定である。

ステンドグラスのチームは、ステンドの先生が毎週月曜日に来て下さり、地域の方などに教室を開いていただき、地域の方との交流やステンドグラスの良さを知っていただくように努めている。

また、重度の自閉症の方に合わせて自立課題を設定している。

■ 課題項目に対する状況や対応

利用者の高齢化	施設ができて間もないこともあり、特別支援学校からの卒業生が圧倒的に多くいる。高齢の方もいるので今後の事を一緒に考えていく予定。社会福祉法人県央福祉会後援会には、成年後見「かけはし」があり、親亡き後の財産管理などを行う事が出来る様な仕組みが揃っている。短期入所も併設しているので、家族に突然不慮の事故が起きても対応できる体制がある。
障害の重度・多様化	肢体不自由の方、知的障害の方、重度の自閉症の方、アスペルガーや ADHD の方など様々な障害種別の方が利用されているので、作業室の配置や食事の時間帯、支援方法など障害種別に合わせて支援している。
利用者の工賃	時給 30 円からスタートして、生活介護の方にもお支払している。賃金算定規定により工賃の支払いをしており、ステンドグラスなどの作業については加給として売り上げの作業割合に応じて工賃を支払う仕組みもある。
送迎支援	送迎の需要は高く、車いすの方が多いことや、重度の障害をお持ちの方が多いことから、送迎は希望者に対して行うようにしている。5 台のリフト車と 2 台の介助車両があり、大和市内はもとより海老名市、座間市、横浜市泉区、瀬谷区、戸塚区に送迎している。
人材確保／ 人材育成	法人の研修委員会より、人材育成のための研修を実施している。
利用者の確保／ 利用率の安定	魅力ある事業所にするために、パソコン作業の充実、ステンドグラス、軽作業の充実、アクティビティの開催、トランスフィットネスの開催により体を動かすようなプログラムを実施して、利用者の確保に努めている。
運営（事業継続のための取り組み）	健全な施設運営が出来る様に、財務状況を確認し必要な情報分析を行い、5 年後、10 年後を見据えた経営戦略を立てている。
外部評価の取り組み	平成 29（2017）年度第三者評価を実施済み。

■ 地域とのつながり、連携のための取り組み

・民生委員児童委員の方は自治会の方と催し物を一緒に開催している。民生員児童員主催の介護予防体操は、毎年恒例事業になっている。また、老人クラブでは、毎年 50 人以上の方が当事業所を使って催し物を行っている。

・スタンドグラスの体験教室を開催しており、地域の方やスタンドグラスに興味のある方が利用されている。



■ 周辺地域の課題

・自治会、民生委員児童員の方が施設によく来て下さり、非常に関係は良好。



—伝えたいこと—

「すぷら」という名前は「sprout:芽吹き」からつけました。ここは、心地よい刺激を与える、さまざまな体験ができる場所を目指しています。そこで生まれる小さな芽吹きを、多くの人々と喜び合いたいと思っています。

事業所情報

所在地	神奈川県大和市上和田 1083-1
TEL/FAX	046-204-6470 / 046-204-6104
事業種別	就労継続支援 B 型 / 生活介護 (多機能型)
開所年	平成 28 (2016) 年 5 月
定員数 / 利用者数	定員数 30 人 利用者数 37 人 (平成 30 (2018) 年 9 月 1 日現在)
利用者の障害 (手帳別)	身体 22 人 療育 51 人 精神 5 人 (事業所全体)
利用者の障害支援区分	区分なし : 14 人、区分 3 : 9 人、区分 4 : 8 人
利用者の年齢	平均年齢 31 歳 65 歳以上 2 人

カラコネオフィス

一下町の銭湯のなかにある事業所。人とまちをつなげる取り組み

東京都墨田区／NPO 法人カラフル・コネクターズ

■事業所の特徴

東京都墨田区の「御谷湯（みこくゆ）」という銭湯のあるビルのなかにある、就労継続支援 B 型事業所。御谷湯は昭和 22（1947）年に創業した墨田区の老舗の銭湯で、『人と環境に優しい福祉型銭湯』をコンセプトに、平成 27（2015）年に 5 階建てのビルにリニューアルされた。このタイミングで、御谷湯とタイアップし、建物のなかに就労継続支援 B 型事業所として設立された。現在 20 名ほどの利用者がおり、主に銭湯の清掃作業を行っている。精神障害の方が多いが、地域で通える場所がなかったり引きこもりの状況にあった人なども積極的に受け入れている。

■利用者の状況

精神障害、発達障害、知的障害、高次脳機能障害の方が在籍。年齢は特別支援学校卒業後すぐの方から 50 代の方まで幅広い。ハローワークからの紹介で、一般就労を目指して利用する方が多いのが特徴。



利用者の仕事場である浴場

■活動内容

●年間総売上高（平成 29 年度年間の総収入）

4,193,974 円

●利用者平均工賃（平成 29 年度年間の平均月額）

13,731 円

●日中活動の内容

●生産活動の内容

作業としては 3 か所の銭湯や町内会館と委託契約を結び、清掃作業を施設外就労として行っている。また、地元の化粧品会社とも契約をし、繁忙期のライン作業に従事している。内職作業はホテルで使用したワイン、シャンパンのコルクの洗浄をしている（きれいになったコルクはアートグッズに生まれ変わる）。また、お寺で行う財布供養で使うお札折りなどもしている。

仕事以外の活動として、ダンスレッスン、アート講座、清掃講座、気功、就労セミナーなどプロの講師による『学びの講座』のほか、地元神社の例大祭に参加したりストリートジャズフェスティバルに実行委員として参加し、カラコネを会場としても提供をし、みんなでジャズを楽しんでいる。また、毎月何らかの半日レクを企画しているほか、年に一回、一泊旅行を実施している。

■ 利用者の支援、活動等で工夫されている点

清掃をしている御谷湯とは平成 18（2006）年から交流があり、当時は通いで清掃のみしていたが、御谷湯のリニューアルに合わせて平成 27（2015）年に同じビルに入居し、一体的な運営をしている。就労支援にも力を入れており、積極的に一般就労につなげる取り組みを行っている。反面、体調や気力が不安定で、毎日通えない方、半日しか作業できないような方も受け入れ、『居場所（通える場所）がある安心感』の提供も大切にしている。

障害者が社会に支えられるばかりの存在である、という意識を変えたい、という思いから地域社会を支えるフードバンクやこども食堂の運営に利用者の方たちと一緒にボランティアとして協力している。



仕事の様子（浴室清掃、ポリッシャー）

—事業所より—

■ わたしたちのセールスポイント

・全国的にもめずらしい銭湯の中にある福祉施設。主な作業は銭湯の清掃、水はり、湯沸かしなどの銭湯の裏方作業と、コルク洗いやお寺のお札づくりなど、少しかわった内職作業がある。その他、地域貢献の一環としてフードバンクのボランティア活動にも力を入れている。作業以外では就労 B 型事業所ではあるものの、ジョブコーチによる就労支援にも力を入れていて、毎年、数名の方が一般企業に就職している。



コルクの仕分けの仕事

■ 利用者の支援で工夫していること

地元の銭湯や企業との信頼関係を築けるよう、ビジネスマナーに気をつけながらも飲み会なども企画し、親しい関係を続けるようにしている。また、障害者の特性などを理解してもらうために勉強会などを開いている。

個別支援では、定期的に利用者職員との面談の時間を設け、ニーズの掘り起こしをしている。就労相談のほか、生活相談にも応じ、問題解決のためにカラコネ自ら支援に動いたり、ケースによってはフォーマル、インフォーマルの外部支援を利用したりしている。



浴場からはスカイツリーも見える

■ 課題項目に対する状況や対応

利用者の高齢化	高齢化の問題はカラコネに関してはまだ大きな課題ではないが、50代の利用者もいることから足腰に負担の少ない作業方法を常に考えるようにしている。
障害の重度・多様化	もともとは精神障害（主に統合失調症や気分障害）の方のサポートを想定していたが、実際には精神障害のほか、発達障害、知的障害、高次脳機能障害など、様々な障害の方の利用が続いていて、障害特性や支援方法について常に悩み、学んでいる。
利用者の工賃	開設4年目の平成30（2018）年度は当面の目標だった平均工賃2万円を何とか達成できた。最終的には3万円を目指して作業の効率化と同時に職場開拓を進めていきたいと考えている。（しかし、精神障害の方が多い施設では週に1回や2回の利用という利用者もいて、現在の平均工賃の計算の仕方には問題があると考えている）
送迎支援	実施していない。
人材確保／ 人材育成	カラコネに実習に来る精神保健福祉士の実習生の中から優秀と思われる学生に声をかけ、採用している。
利用者の確保／ 利用率の安定	ハローワークや各区就労支援センター、地域活動支援センター、保健センターなど、日ごろから関りのある場所に定期的に訪問、パンフレットやニュースレターを配布し、担当者との顔の見える関係を絶やさないように努力している。矯正施設退所者など他の施設ではなかなか受け入れてもらえなかった方も本人の就労意識などを確認の上、受け入れるようにしている。利用率の安定のためには毎月のローテンション表を事前に配り、作業現場の一員として作業に入る責任があり、必要とされていることを意識できるように工夫している。
運営（事業継続のための取り組み）	現状に満足することなく、常に新しい作業のやり方、作業開拓、利用者確保のためのネットワークづくり、一般就労のための職域開拓を考えている。
外部評価の取り組み	3年に一回、運営と経営に関して第三者評価を受けている。

■ 地域とのつながり、連携のための取り組み

- ・神社の例大祭に協力したり、区内全域で行われるジャズフェスティバルに職員が実行委員として協力し、カラコネを会場として提供、当日は利用者と職員がボランティアスタッフとして働いている。日本最大のフードバンクのセカンドハーベスト・ジャパンに協力し、ボランティア活動をしている。
- ・地元で70年以上続く銭湯で働き、お客様と接し「いつもありがとう」などと声をかけていただくことで、地域のために仕事をしている



地域のお祭りに参加

のだ、という意識が芽生えている様子である。また、地元のお祭りやイベントなどにボランティアとして参加してもらうことで地域との連携を実感できるように工夫している。

■ 周辺地域の課題

・墨田区はいわゆるゼロメートル地帯に位置し、今後発生が懸念されている東京直下型地震やスーパー台風による被害が他地域よりも甚大になる可能性がある。利用者や地域の人々の防災意識向上のため、防災専門の NPO と組んで活動をする予定である。



町内清掃のボランティア活動

— 伝えたいこと —

高齢化や少子化による地域ごとの課題は、就労 B 型事業所にとってはそれぞれが社会的なニーズととらえることができる。カラコネオフィスにとっては、そのニーズが経営者の高齢化と後継者がいないことにより減少を続ける銭湯であった。農業や林業、地方の地場産業などの中にも就労 B 型に関わることもできるものが多いと感じている。就労 B 型事業者には発想を転換し、社会のためにもなり、障害者の働く場の開拓にもつながる新しい試みにトライしてもらいたいと思う。

事業所情報

所在地	東京都墨田区石原 3-30-10 御谷湯ビル 201
TEL/FAX	03-6284-1787 / 03-6284-1788
事業種別	就労継続支援 B 型
開所年	平成 27 (2015) 年 6 月
定員数/利用者数	定員数 20 人 利用者数 20 人 (平成 30 (2018) 年 9 月 1 日現在)
利用者の障害 (手帳別)	身体 0 人 療育 7 人 精神 13 人
利用者の障害支援区分	区分なし : 15 人、区分 2 : 2 人
利用者の年齢	平均年齢 42 歳



今日もお客様をお待ちしています

就労継続支援 B 型

充実した日中活動を提供する

ほっとステーションぽてと Job ステーションぽてと

社会参加を目指す

—カフェと宅配で地域に貢献。地域で暮らすこと、働くことを支える—

兵庫県神戸市 / NPO 法人ひやしんす

■ 事業所の特徴

神戸市北区に所在する、山あいにある就労継続支援 B 型事業所。神戸電鉄大池駅の目の前に、スイーツや軽食を提供する「Café ぽてと」を運営している。運営主体の「NPO 法人ひやしんす」は、平成 17（2005）年に精神科病院の作業療法士と外来作業療法の患者と一緒に、精神障害の人たちが集い働ける場所を地域の中に作り、小規模作業所として始まった。周辺地域はかつてのニュータウンで、現在は住民の多くが高齢者世帯となっている。Café ぽてとの客層は地域の高齢者が多く、外出が困難な高齢者も増えていたことから、平成 19（2007）年から宅配弁当サービスを開始し、見守りの支援にもなっている。

「ほっとステーションぽてと・Job ステーションぽてと」は、働くことや人とのかかわりを通して、一人ひとりの自分らしさを見つける場所としての事業所であり、年齢や性別、障害の有無、文化の違いに関わらず、誰もが安心して生き生きと暮らしていけることが当たり前の地域社会、町づくりに貢献できるように活動している。



「Café ぽてと」の外観（大池駅すぐ）

■ 利用者の状況

利用者は 75 名で、精神障害者の方が多い。年齢層は、18 歳から 65 歳以上まで幅広く利用している。

■ 活動内容

● 年間総売上高（平成 29 年度年間の総収入）

23,253,876 円

● 利用者平均工賃（平成 29 年度年間の平均月額）

13,852 円

● 日中活動の内容

● 生産活動の内容

喫茶店、スイーツの製造・販売、お弁当の製造と配達、高齢者・障害者へのサービス及び見守り、講演、ピアサポート、園芸、清掃など

■ 利用者の支援、活動等で工夫されている点

精神病院での長期入院を余儀なくされている人たちが、地域で暮らすための支援の場と、日中活動を提供しており、精神病院からの地域移行に貢献している。入院生活や自宅でひきこもりがちな生活が長い方の場合、事業所に来るといった事がとても高いステップなので様々な活動を通して、時間をかけてまずは居場所となるように働きかけている。そして、お弁当の配達や喫茶の仕事を通して人と交わることで自分らしさを発見できるという事を大切にしている。

—事業所より—

■ わたしたちのセールスポイント

・近隣の高齢者へ、手作りのお弁当を宅配し、簡単な買い物などのサービスや安否確認を行う「宅配サービス」など、地域とのつながりや地域への貢献などを法人として取り組んでいる。

・当法人は、精神障害者や作業療法士の任意グループに端を発し、法人化後も同様のメンバーで活動。理事長、法人役員には身体障害者、精神障害者の当事者が多く、法人運営や今次事業の企画等にも参画している。

・昨年、近くの県立精神医療センター内に、「Café はあと」がオープンし、入院患者様や家族の方が気軽に相談に訪れる事ができる場を作りピアサポーターも活躍している。また、専門学校の授業や実習も利用者様の仕事として受けており、リハビリテーションに携わる専門職の教育にも貢献している。

・スイーツの製造販売においては、プロのパティシエから指導を受けて、プリンやフィナンシェなどを製造しており、各所のイベントへ出店する機会も多い。

喫茶店での接客や調理、園芸での野菜や花づくり・販売など、仕事のやりがいや地域とのつながりなどを生み出す機会を創っている。

・仕事以外でも、スポーツやカラオケ、絵画教室などのクラブへ参加することもでき、利用者の活動・生活の幅を広げている。



■ 利用者の支援で工夫していること

・利用者自身の強みを引出し、自信をつけ、自分らしさを見つけられるようにすること。そのために、仕事に利用者当てはめるのではなく、あくまでも利用者の『ニーズ』に合わせて仕事を作り出していくことが大切だと考えること。

■ 課題項目に対する状況や対応

利用者の高齢化	30 歳台の登録が一番多く、若い 20 代の社会経験がない人も多い。高齢化への意識はないが、65 歳になり、介護保険に移行していく事がメリットになる方もあれば、デメリットになる方もいるので難しい。
障害の重度・多様化	障害が明確でない人、理解されない人が多い。 また、重複している人も多い
利用者の工賃	時給 320 円だが、居場所としての機能もあるため月額では 13,000 円前後
送迎支援	現在行なっていない。
人材確保／ 人材育成	専門学校の実習生を多く受け入れている。職員には現役を引退した地元の方も受け入れている。 ミーティングや、研修会などの機会を多く設けている。
利用者の確保／ 利用率の安定	見学者が多く、多方面から相談を受けている。
運営（事業継続のための取り組み）	ひきこもりがちな人や、家族まるごとの支援が必要な方もおられるので、支援力が問われる。
外部評価の取り組み	新聞、雑誌、広報誌などへの掲載や、取材を受けている。

■ 地域とのつながり、連携のための取り組み

- ・精神科病院の退院促進支援事業、相談支援事業をしており、多くの障害のある方や家族からの相談をうけ、また支援会議等に参加することが多い。
- ・地域の高齢者に対して宅配弁当のサービスを行っており、ケアマネジャーさん達から直接紹介されることが多い等、介護保険サービスにも利用されている。
- ・13 年前に地域の自治会と始めた、「さくらまつり」「夏祭り」「文化祭」など、現在も続いている。また、町の中心にある Café ぼてとは連日、地元のお客様の憩いの場、交流の場になっている。

■ 周辺地域の課題

- ・エリアが狭いことと、神戸(中心部)と距離は短い、交通費が高い。
- ・かつてのニュータウンだが、現在住民の多くは高齢者世帯で、坂や道幅も狭いところが多いこともあり、外出が困難で孤立しがちな人が多い。
- ・飲食店が少ない



—伝えたいこと—

私たちの法人の理念はどんな人にも役割があり、その役割を見つけて行えること、そうして誰もが地域で安心していきいきと過ごすことができる社会を実現していく事です。地域にはそれぞれ様々な問題を抱えています。地域のニーズに常にアンテナをはり、どうすれば貢献する事ができるか、どんな役割を求められているか考え、1人1人の役割と結びつけて、一丸となってニーズの達成を目指してきました。

誰もが安心していきいきと過ごすことができる社会の実現という理念をブレずに活動してきたことで精神障害のある方々の施設が町の中心にありながらも地域の人々に受け入れられ、13年続けてこれたのだと思います。

事業所情報

所在地	兵庫県神戸市北区山田町上谷上字古々山 29-221
TEL/FAX	078-581-3796 / 078-581-3796
事業種別	就労継続支援B型
開所年	平成17(2005)年にNPO法人として認可
定員数/利用者数	定員数40人 利用者数75人 (平成30(2018)年9月1日現在)
利用者の障害(手帳別)	身体6人 療育23人 精神46人
利用者の障害支援区分	区分なし:31人、区分2:23人、区分3:15人、 区分4:5人、区分5、区分6:1人
利用者の年齢	平均年齢41歳 65歳以上4人

ライフサポート ラヴィ

—“施設や支援者がなくても安心して暮らせるように”地域と共生する—

山梨県南アルプス市／社会福祉法人蒼溪会

■事業所の特徴

山梨県南アルプス市に所在。運営主体である法人は、精神科病院から退院した後地域で生活していくための日中通える場所として、昭和 52（1977）年に、院外作業として地域の県立病院の入院患者の受け入れを開始し、以後は主に精神障害の方が地域で安心して生活ができる拠点を作ることを目指して、事業を展開している。ライフサポート「ラヴィ」は平成 30（2018）年 4 月に開所したばかりの新しい生活介護事業所であり、介護保険法に基づく「通所介護」事業をあわせて実施する「共生型サービス」の事業所である。



事業所の外観

■利用者の状況

定員は 20 名で、現在契約者 16 名。障害種別では精神障害が大半で、平均支援区分は 2.4。平均年齢は 62 歳で高齢の利用者が多い。

■活動内容

●年間総売上高（平成 29 年度年間の総収入）

平成 30（2018）年度スタートのため無し

●利用者平均工賃（平成 29 年度年間の平均月額）

平成 30（2018）年度スタートのため無し

●日中活動の内容

午前：体を使った活動

・近隣のウォーキング（施設内には意図的に自動販売機を設置しなかった。近隣の自動販売機まで歩いて購入という目的を作ることによって参加を促している。）

・敷地内の散歩、キャッチボール（心臓に持病があったり、1.5Km ほどの距離が歩けない方が参加している。）

午後：心と頭を使った活動

・テーブルゲーム（トランプ、花札、オセロ、将棋、麻雀） * 利用者同士の場合もあるが、調整のために支援員が加わったほうが参加がしやすい。

- ・脳トレ、塗り絵、読書（対人のゲームなどが苦手な方や一人でいたい時に取り組んでいることが多い。）
- ・YouTube トーク、カラオケ（支援員にリクエストをして過去の懐メロなどの動画をテレビで聴いている。） カラオケもだが順番やリクエストの調整は支援員が行っている。

■利用者の支援、活動等で工夫されている点

総合支援法の生活介護と介護保険法の通所介護として共生型通所介護のサービスを提供しており、高齢の利用者の QOL を高めていくことを目的としている。利用者は精神障害の方が中心で、平均年齢が 62 歳ということもあり、日中のプログラムは細かい設定はしておらず、「体を使った活動」と「心と頭を使った活動」という枠組みを半日ずつと、ゆったりと過ごせる雰囲気づくりを心掛けている。事業所内に浴室が 2 室あり、日中利用ができる。グループホーム入居者であってもなかなか自分から入浴が十分にできていない利用者のニーズにも応え、毎日希望者が利用している。昼食は自家調理で提供しており、利用者からのリクエストにも応えて献立を組んでいる。利用者一人ひとりのニーズを大切に、安心して過ごせるための細やかな支援が提供されていた。

近隣の精神科病院のデイケア縮小から移行してくる利用者の受け入れも多く、利用者の背景に応じた支援を細やかに提供している。周辺地域の高齢化は進んでおり、法人全体で地域の課題を考えてアプローチしたいと考えている。事業所のある地区では、南アルプス市社会福祉協議会のバックアップを受けて「支え合い協議会」が平成 30（2018）年 9 月に発足。今後具体化していく予定で事業所としての参画・協力も検討している。

“施設や支援者がなくても安心して暮らせるように支援すること”という法人の理念から、利用者が地域の中で生活ができるための環境作りを積極的に取り組んでいる。



清潔感がありゆったりと過ごせるスペース

—事業所より—

■わたしたちのセールスポイント

- ・浴室を 2 室設置している。グループホームや単身生活の方からは「家での入浴はしなければとは思いますが、ユニットバスで狭かったり、掃除が大変だから入らない。施設の風呂ならきれいだし掃除もしなくていいから入浴する」という意見が多く、毎日 3～8 人の利用されている。
- ・昼食は自家調理で週 5 日の提供をしている。食事が偏りがちな利用者からも「食事が手作りでおいしい」との声が多く、偏食傾向の利用者が完食するようになった方もいる。

■ 利用者の支援で工夫していること

- ・日中活動の午前は「体を使った活動」、午後は「心と頭を使った活動」という大枠は決めているが、細かいメニュー設定はせず利用者に合わせて行うこととしている。
- ・利用者の希望に沿ってそれぞれが過ごせる環境づくりを大切にしている。

■ 課題項目に対する状況や対応

利用者の高齢化	最高齢が「71 歳」、最年少が「49 歳（障害支援区分 3）」である。従来の高齢者施設と比較すると年齢層が若いと方だと思われる。現状では歩行や嚥下に顕著な障害は見られないが、今後は十分に予想される。
障害の重度・多様化	主に精神障害福祉手帳を交付され、統合失調症、双極性障害の方が多い。来年（令和元年）度は近隣の特別支援学校より、18 歳の知的障害（ダウン症）の新規利用が予定されている。現在は児童支援まで含んだ共生型サービスは検討していないが、18 歳の新規利用者と現状の平均 62 歳の利用者とは混在することとなり、幅広い柔軟な日中活動が求められると予想される。「共生」に必要な不可欠なのは「相互理解」と考える。相互理解は支援者だけでなく、利用者同士にも必要であり、既存の利用者に知的障害、ダウン症の特性などを伝え理解を求める支援も必要と考える。
送迎支援	地域特性上、自家用車での移動が主であり公共交通機関は乏しい。利用者で自家用車を使って通所しているのは 2 名。過去に運転免許を取得している利用者もいるが、服薬による副作用のために運転を禁止されていたり、収入が障害年金 2 級のみで維持費を賄えないことも背景にあると思われる。送迎支援は通所のために必須だが、近年の燃料費の高騰や車両維持費による支出が増えている。
人材確保／ 人材育成	新卒職員の採用は、養成校も少ない理由から非常に確保が厳しい。魅力ある法人経営を考え確保につなげていきたいと考えている。／法人内での事例検討会や研修、また県内外の他施設を視察し、法人外研修に参加し、職員の育成を行っている。
利用者の確保／ 利用率の安定	近隣にある山梨県立北病院（精神科）で長年デイケアサービスを提供してきたが、サービス改編のためにデイケアを刷新・縮小をしている。これを受けて、デイケアから当施設への利用移行が多くなっている。
運営（事業継続のための取り組み）	相談支援、就労支援、居住支援など法人内外の事業所とのつながりを通し、障害者のニーズに応えられるように運営している。
外部評価の取り組み	取り組まれていない。

■ 地域とのつながり、連携のための取り組み

施設のある源地区では、南アルプス市社会福祉協議会がバックアップとなり「支えあい協議体」が平成 30（2018）年 9 月に発足した。発足準備のために平成 29（2017）年頃より活動が始まっていたが、当施設が平成 30（2018）年 4 月に開所してから準備会の段階より話し合いに参加するようにしている。地域住民が主体となる活動とするために、まだ具体的な取り組みは始まっていないが地域の福祉施設としてニーズの発見と共有をするなかでできることを検討していく予定。



浴室は 2 室ある

■ 周辺地域の課題

・支えあい協議体の話し合いによると、施設近くの地域（組の範囲）では旧芦安村から移住してきた住民が多いとのこと。他地域のように高齢化は進んでいるが、例えばゴミ出しができない、買物ができないといった高齢化による課題はまだ出てきてはいないとのこと。世帯としては高齢化しても夫婦同居、または夫婦の子が近隣に住んでいて援助があるという状況が多い様子。

—伝えたいこと—

法人の設立経緯から、高齢精神障害者の地域生活支援を念頭に共生型サービス事業所をスタート。「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」の構築も目指し、精神障害者の支援を切り口に、高齢者や児童を含めて包括ケアに寄与していきたいと考える。また障害者支援施設ではあるが、地域に貢献し、地域活動の拠点になれるような事業経営に取り組んでいくことを目的にしています。

事業所情報

所在地	山梨県南アルプス市有野 28271-1
TEL/FAX	055-267-8381 / 055-267-8380
事業種別	生活介護
開所年	平成 30（2018）年 4 月 1 日
定員数/利用者数	定員数 20 人 利用者数 16 人 (平成 30（2018）年 9 月 1 日現在)
利用者の障害（手帳別）	身体 0 人 療育 1 人 精神 18 人
利用者の障害支援区分	区分 2：16 人、区分 3：3 人、区分 4：1 人
利用者の年齢	平均年齢 62 歳

生活介護／就労継続支援 B 型

ふみだす

多様な人たちを支える

社会参加を目指す

—誇りや生きがいを獲得する社会参加の場。“生きることへの支援”—

北海道伊達市／社会福祉法人伊達コスモス 21

■事業所の特徴

北海道伊達市に所在する、生活介護と就労継続支援 B 型の多機能型事業所。運営主体の法人は、平成 13（2001）年に法人化、小規模通所授産施設としてパンの店「コスモス」を開所し発足した。平成 15（2003）年に、通所授産施設「ふみだす」を開所。同年にはグループホームも開設し、早くから地域での生活を具体化している。法人理念は「生きることへの支援」。ふみだすは、「障害がどんなに重くても、また高齢であっても、その思いや願いを叶えるため、支援を行う」ことを大切にしている。利用者のひとりひとりのやりたいことを叶える「自己実現の場」、どんなに障害の重い人でも社会の一員として役割を持つことを大切にする「社会参加の場」、ひとりひとりが役割を通して「誇りを獲得する場」であることを大切にしている。



■利用者の状況

知的障がい者（中度～最重度）、重度重複障がい者、医療的ケアが必要な者（胃ろう・鼻腔栄養、気管切開、痰の吸引、呼吸器の対応、義眼洗浄、浣腸、導尿など）、高齢知的障がい者（認知症、身体障害、終末期の方の対応など）など



事業所の外観（下は「湯ったり館」）

■活動内容

●年間総売上高（平成 29 年度年間の総収入）

2,992,585 円（生活介護・生産活動での売り上げ）

●利用者平均工賃（平成 29 年度年間の平均月額）

3,424 円

●日中活動の内容

- ・生産活動（菓子箱組み立ての受託作業、清掃業の受託作業、手工芸作成、販売、割りばしの詰め、農耕作業、お茶やだしなどの受託販売）
- ・創作活動
- ・社会参加活動
- ・社会貢献活動
- ・機能訓練
- ・生活圏域の拡大
- ・入浴（自宅、GHにて入浴が困難な方への入浴支援（特殊浴槽 2 台、ユニットバス 2 室））

■ 利用者の支援、活動等で工夫されている点

生活介護は3つの班があり、年齢や障害特性などにあわせて一人ひとりが役割を持てることや、安心して過ごせる環境づくりを心掛けている。主に60歳以上の高齢の利用者で構成されている「てくてく班 2班」では、健康維持、病気の管理に配慮しながら、自分の役割を感じて生きがいを持って活動できることを大切にプログラムが組まれている。事業所内にエステを受けられる部屋があり、女性利用者のリラクゼーションや幾つになってもおしゃれな心を持つのは生活の張りにもつながっている。また、「湯ったり館」として、3種類の完全個室浴室（特殊浴槽、リフト浴、ユニットバス）があり、入浴の際は、利用者一人入るごとにお湯と床のマットをすべて入れ替えるなど細心の配慮がされている。また、入浴の機会がない地域の高齢者や障がい者も利用ができ、地域における社会貢献を果たしている。



ネイル、エステの様子

他の班では重度の知的障害や重度重複、発達障害の利用者などがおり、生産活動やアートなどの創作活動、機能維持のためのリハ、社会参加や生活圏域拡大のための活動など細やかに取り組まれている。

また、就労B型は、パンの製造販売を行なうパングループと、災害備蓄用ビスケット製造やクッキー、スイーツ製造などを行なうビスケットグループがあり、敷地内の店舗等で販売している。

—事業所より—

■ わたしたちのセールスポイント

- ・障害が重たくても、年齢を重ねても日中活動をとし利用者の役割や出番を作り必要とされていることを意識してもらえる支援を実践している。
- ・常勤で看護師を複数（4.5人）配置し医療的ケアの必要な利用者の受入れを実施している。
- ・高齢知的障がい者が年齢や状況に応じた活動ができるよう、班を編成し取り組みを実施している。
- ・在宅高齢者・障害者入浴支援事業（公益事業）を実施し、地域の高齢者や障がい者が「湯ったり館」を利用する際、ふみだすの利用者と顔見知りとなり交流を行うことができる。
- ・赤い羽根共同募金やペットボトルキャップの収集・投函、高齢化した信者さんの教会のお御堂清掃など社会貢献できる活動に積極的に参加している。
- ・芸術やアート活動を実施し、街でアート展開催し作品をとおして地域住民への発信を行っている。
- ・近隣の児童デイサービスの利用者がスヌーズレンの体験に来ることで交流できる。

■ 利用者の支援で工夫していること

- ・利用者の希望や心身の状況（高齢・重度重複・知的）に応じて班を編成し、班の特性に合わせた活動を提供している。また、重度・重複障がいや医療的ケアが必要な利用者が安心して活動を続けられるよう、看護師を複数（4.5人）配置し手厚い医療的ケアを実施している。
- ・家族、生活支援者と必要な時に面談や打ち合わせなどを行い、利用者の身体的な状況の共有や、そ

の時抱えている課題や問題点などについて迅速に対応し解決するよう取り組んでいる。

- ・増加する高齢知的障がい者の日中活動において、地域社会や班内などで役割を持ち、自信や生きる活力を失わず活動できるよう活動内容の工夫をしている。
- ・重度重複障がいのある利用者の生活圏域を拡げることを目的に公共交通機関の利用や海・山等の屋外活動を定期的実施している。

● 高齢期支援で大切にしていること

- ①歳を重ねるといことは身体機能の後退と比例して出番や役割が減少しがちになるが、「まだまだ、やらなきゃならないことがある、自分は必要とされている」という想いをもち続けて頂くよう日中活動や暮らしの場面において日々の出番や役割を創り出している。
- ②還暦祝いを一人ひとりホテルや料亭を会場にして、その人の人生に良い関わりをした人に臨席して頂き執り行う。「60年の人生でいろいろあったけど、そこそこ良い人生だったんだなあ・・・みんな有り難う・・・」という感謝の思いで人生を閉じて頂くために60歳の還暦祝いで一度人生を総括しておくため。
- ③いままでの人生でやってみたかったこと、歳を取ってしまったが故に手放したり諦めてしまったことを可能な限り実現するようにしている（例：船釣りやペットの飼育）
- ④利用者本人が高齢期を迎えるとき、親は更に高齢期を迎えている。当法人の考え方として「もしも、彼（彼女）に障がいが無かったら、息子として、娘として親の高齢期の支障にどう向き合うかを基準に考えていこう」としている。親御さんの看取りや葬儀への参列は当然のこととして、これまでの事例をあげると、市内に住む認知症が進む両親宅に毎日の見守り、入院先への頻繁なお見舞いと激励、人によっては自分のグループホームに認知症が進みつつある介助の必要な親を招き泊まって頂く（親御さんに子どもである自分の暮らしを安心してもらうために）、遠方の一人暮らしの母親を市内のケアハウスに呼び寄せ長男として毎週訪問と外出等、親の高齢期の支援を法人として手伝っている。

■ 課題項目に対する状況や対応

利用者の高齢化	<ul style="list-style-type: none"> ●利用者 58 名中、50 歳以上の利用者が 35 名（60.3%）。 ●高齢者の割合が多いが重度重複の若い利用者も多く、平均年齢は 49.2 歳。
障害の重度・多様化	<ul style="list-style-type: none"> ●重さや多様化の内容に応じて、活動班の編制、看護師の複数配置や訪問リハ、個室浴 4 室・機械浴、職員の過配置等ハード・ソフトの環境を整えている。
送迎支援	<ul style="list-style-type: none"> ●58 名中、52 名が送迎サービスを利用（区分 5～6 が 60%以上、重度送迎加算対象）、車椅子送迎車 2 台、朝 8:30 から開始、帰りは 15:40 から。
人材確保／人材育成	<ul style="list-style-type: none"> ●人材確保のため 1 年中求人を行っている状態 ●朝、夕に常勤職員全員が集まり打ち合わせを行っている。朝は一日の流れの確認や、世話人からの GH での利用者の状況を確認する。夕方はふみだすの活動での出来事や支援の状況、対応した内容などを発表し合い、サビ管や管理職などが助言を行ったり、うまくいかない状況を解決に導くなど、職員ひとりひとりが自分だけの考え方や支援にならないよう、支援基準の共有化を図っている。また、新人職員に対し OJT の手法を用いて、教育係をつけている。新人研修を 2 期に分け、段階に応じ必要な研修を実施している。
利用者の確保 利用率の安定	<ul style="list-style-type: none"> ●常に満員で定員以上の受入を行っている。特別支援学校卒業後の進路として選択してもらい、一般就労をしていた障害者が高齢となり、ふみだすを選択する方が多い。
運営（事業継続のための取り組み）	<ul style="list-style-type: none"> ●「課題とニーズ」は利用者・家族の「辛さと痛み」と捉え事業運営を行っており、要望にできるだけ対応している。その姿勢が信頼という人気を生み運営を後押ししてくれている。 ●利用者や地域の障がい者の将来を見据え、今後の課題や必要となる事に対し具体的に取り

	組んでいる（高齢障がい者・重度重複のGH、医的ケア対応短期入所等）。投資の為の出費も多い。また、地域の事業者へも発信している。
外部評価の取り組み	●北海道知的障がい福祉協会が実施しているオンブズマンを導入しているが、毎年は難しいので外部の第三者評価を入れたいと考えている。

■ 地域とのつながり、連携のための取り組み

- ・利用者とともに作品の販売先（道の駅、国立公園内のクマ牧場等）に在庫確認や納品に行っている。
- ・赤い羽根共同募金や歳末助け合い等の街頭募金活動に参加、街頭募金の部門では集金額が毎年首位となっており市の社会福祉大会で表彰されている。
- ・毎年開催のふれあい広場に出店や重度重複障がい利用者の活動について紹介のパネル展を実施、また、地域のイベントホールでアート展を開催し、利用者の作品や絵をとおしステキなセンスやパワーを市民に伝え好評を得ている。
- ・音楽、ストレッチ体操、読み聞かせ、お茶、そば打ち、作業の補助など様々な活動でボランティアが来所。
- ・重度重複障がいのある利用者が、一般市民の利用する地域資源を利用することにより、体験を通し生活圏域を拡げることや地域資源の従業者達に合理的配慮を考え実行して頂くことを目的とし、夏はニセコ連邦の神仙沼木道散策、噴火湾の船釣り、伊達武者祭り山車パレードの参加、冬はスキー場にて自作の車椅子そり滑走を毎年実施している。



重度重複のある方の船釣り

■ 周辺地域の課題

- ・医療的ケアの必要な障がい者や重度重複障がい者が利用できる事業所が限られている。
- ・課題やニーズに応えるほど、他市町村からの移住者が増え、伊達市行政の福祉予算（一般会計・扶助費）が膨大となり圧迫している。

—伝えたいこと—

この仕事に就く者の起点は「憂い（他者への愛）」であり、動く時に必要なのは「人としての誠実」であると思つづく。『課題』と『ニーズ』は利用者とその家族の辛さであり痛みである。

事業所情報

所在地	北海道伊達市松ヶ枝町 59 番地 4
TEL/FAX	0142-25-0022 / 0142-25-0066
事業種別	生活介護/就労継続支援B型（多機能型）
開所年	◎開所年 平成 15 年 ◎事業の開始年 平成 19 年（自立支援法）
定員数/利用者数	定員数 60 人 利用者数 78 人（平成 30 年 9 月 1 日現在）
利用者の障害（手帳別）	身体 20 人 療育 58 人 精神 0 人
利用者の障害支援区分	区分 6 : 25 人、区分 5 : 14 人
利用者の年齢	平均年齢 49.2 歳

パン工房いそっぱ

— 高齢でも重い障害があっても役割があること、働くこと、通えることを大切に —

宮城県栗原市／社会福祉法人栗原秀峰会

■事業所の特徴

宮城県北部の栗原市にある、生活介護、就労 B 型の多機能型事業所。生活介護の利用者定員は 20 人。利用者の障害種別では、全員が知的障害で、なかには全盲・四肢麻痺・てんかんの全介助の利用者も利用している。法人の理念として、「日中行く場所があること」と、生活介護であっても「働けること」を大切にしている。生活介護の利用者は、事業所の中心的な生産活動であるパンの製造販売の仕事に必ず関わるようにしている。また、併設している就労 B 型では、災害備蓄用のパンの製造販売を行っており、ISO22000 を取得し衛生管理を徹底している。生活介護であっても仕事に関わることと併せて、「高品質の商品を製造販売すること」などの理念があり、パンの仕事を始めるにあたって、近隣のパン屋に依頼をして、パン職人に事業所に来てもらい、おいしいパン作りための技術を支援者が学び、修行を重ねた。現在そのノウハウを活かし、事業所敷地内にある店舗を中心に販売を行っている。

利用者への支援も細やかに実践されている。多機能型事業所であるが、生活介護と就労 B 型では作業スペースが分かれており、仕事の内容も線引きがされている。支給される工賃は、生活介護が約 7 千円、就労 B 型は約 1 万 5 千円である。

また、事業所内部で第三者評価、自己評価を行っており、利用者主体、権利擁護等に対する職員の意識を高めるための取り組みを積極的に行っている。

■利用者の状況

知的障害がある人の利用が多い。平成 18 年（2006 年）に作業所として開所した当時からサービスを利用している利用者が高齢化してきており、平均年齢は 53.6 歳。最高齢は 79 歳である。障害支援区分は、大半が区分 3 以上で、区分 3 の利用者が 12 人、区分 4 の利用者が 5 人である。



敷地内にある店舗にて焼き立てパンを販売している

■活動内容

●年間総売上高（平成 29 年度年間の総収入）
10,249,845 円（生産活動での売り上げ）
●利用者平均工賃（平成 29 年度年間の平均月額）
7,248 円
●日中活動の内容
・生産活動：菓子パンの製造・販売
・その他、創作的活動や手工芸品の制作などを日中活動のなかで行っている。

■利用者の支援、活動等で工夫されている点

事業所内に店舗があり、菓子パン製造、販売を中心に、利用者全員がパンに関わる仕事を行なっている。また、法人の障害者支援施設では、近隣にある栗原合同庁舎のなかのレストランの業務を委託されており、いそづからもグループホーム入居者や支援施設の利用者が仕事をしている。昼食の時間には栗原合同庁舎職員をはじめ多くの利用客で賑わっており、利用者の社会参加ややりがい作りにもつながっている。また、法人内での第三者評価やサービス評価などしっかりと実施し、外部評価、自己評価を通して利用者への支援の充実を図っている。

地域とのつながりは、店舗での販売や栗原市合同庁舎、近隣企業、保育所、幼稚園などのおやつとしても提供しており、生産活動を通して地域と触れ合う機会を作っている。地域の防災訓練やイベント等にも積極的に参加している。



パン工房いそづ店舗と缶パン製造の様子

■わたしたちのセールスポイント

・生活介護事業所の前身、授産施設分場立ち上げた小規模作業所の活動が、一迫地区で長きにわたり引き継がれている。事業所の姿勢として、「日中に行く場所があること」を大切にしている。

■利用者の支援で工夫していること

- ・利用者の年齢や障害特性が多様なため、健康管理や情緒面の安定を心掛けている。
- ・生活介護ではあるが、利用者全員が必ず何らかの仕事に関わることを大切にしている。
- ・第三者評価については、法人内で苦情解決の委員会があり、地域住民、教諭、保護者、弁護士などで委員会を作っている。サービス評価については、毎年1回法人の全職員で実施している。
- ・虐待チェックリストを活用して自己評価を行い、自分の支援の姿勢や視点の振り返りをしている。

■課題項目に対する状況や対応

利用者の高齢化	65歳以上は介護保険優先ではあるが、障害の強みと介護保険の強みが両方あると認識している。地域の中で障害者と高齢者が生活を組み立てていくうえで、各々の強みを生かす日課や支援が重要と考えている。
障害の重度・多様化	自閉スペクトラム症の支援に特化した研修の場を設ける必要があると考えている。
送迎支援	毎日3コース、往復約1時間かけて支援を行っている。送迎支援は利用者とのコミュニケーションの場となっており、生活支援の一つであると認識している。
人材確保／ 人材育成	人材確保は困難を極めている。福祉の仕事に対する報道などの影響もあると考える。楽しいことややりがいがあることを発信する対策が必要と感じている。
利用者の確保／ 利用率の安定	利用者は、現在は相談支援事業所や特別支援学校との連携により毎年確保できている。
運営（事業継続のための取り組み）	利用者の稼働率を意識した取り組みと、土日の行事の開催など、支援の在り方を工夫している。
外部評価の取り組み	事業所内部で第三者評価を実施している。サービス内容の評価について、年1回全職員を対象に実施している。

■ 地域とのつながり、連携のための取り組み

・地域の防災訓練への参加や、イベント開催などで関わりをもっている。

■ 周辺地域の課題

・風土としてあまり障害についての関心が高くない。今後は地域の社会福祉協議会や学校など関わりを持つことが重要と考えている。

—伝えたいこと—

高齢であっても重い障害があっても、必ず仕事に携わる。日中通える場所があること、役割があることを大切にしている

事業所情報

所在地	宮城県栗原市一迫柳目字曾根要害 24
TEL/FAX	0228-57-7366 / 0228-52-5650
事業種別	生活介護/就労継続支援B型 (多機能型)
開所年	平成 18 (2006) 年 8 月 (現事業は平成 24 (2012) 年 4 月から)
定員数/利用者数	定員数 20 人 利用者数 20 人 (平成 30 (2018) 年 9 月 1 日現在)
利用者の障害 (手帳別)	身体 3 人 療育 20 人 精神 0 人
利用者の障害支援区分	区分 3 : 12 人、区分 4 : 5 人 区分 2、5、6 : 1 人
利用者の年齢	平均年齢 53.6 歳 最高齢 79 歳

生活介護 アンジュ

多様な人たちを支える

充実した日中活動を提供する

—平均年齢 56 歳。働きたい、通いたいニーズに応える場所—

東京都葛飾区／社会福祉法人原町成年寮

■事業所の特徴

東京都葛飾区に所在。運営主体の法人は、昭和 37（1962）年無認可の「通勤センター原町成年寮」を開設し、障害のある人の就労への取り組みから始まった。昭和 52（1977）年に社会福祉法人原町成年寮を設立し、東京都葛飾通勤寮を受託運営。アンジュは平成 20（2008）年に開所した、生活介護事業所。従たる事業所として、「かつしかエコライフプラザ（ゆず屋・タッセル）」「キッチン Kiss・原町食堂」を運営しており、事業所外での活動を行っている。高齢や障害の重い方が充実した日々を送れるよう、多様な活動を提供することを大切にしている。定員は60人で、65歳以上が18人、平均年齢 56.5 歳と高齢の利用者が多い。以前就労をしていて、リタイアして利用につながった方が多く、また平成 30（2018）年 9 月に法人内で新規事業所を立ち上げて障害が重い方が異動したこともあり、現在区分 3 以下が約半数を占めており、高齢者は多いが元気な方が多く、仕事を中心とした活動を行なっている。また利用者の大半が、法人内のグループホーム利用者である。



作業の様子

■利用者の状況

20～30 代の利用者の方が 9 名しかおらず、高齢の方が多い。以前一般就労し、年齢的に高くなり、リタイアした方が多く、仕事への意欲は若い方より高い。

■活動内容

●年間総売上高（平成 29 年度年間の総収入）

28,986,952 円

●利用者平均工賃（平成 29 年度年間の平均月額）

5,764 円

●日中活動の内容

【事業所内】

軽作業（学校教材の部材入れ、ボールペンの組み立て等）

自主生産活動（しめ飾り・アクリルたわし）

創作活動・クラブ活動等

【事業所外】（従たる事業所）

「かつしかエコライフプラザ」：かつしかエコライフプラザ内で、日用不用品販売コーナー「ゆず屋」・喫茶コーナー「タッセル」を運営。

「キッチン Kiss・原町食堂」：アンジュ・シャングリラ（生活介護事業所）の給食の調理、配膳、配達の仕事。土曜日のサロン。



日曜不用品販売コーナー「ゆず屋」



喫茶コーナー「タッセル」

■利用者の支援、活動等で工夫されている点

事業所内での作業はボールペンの組み立て等の軽作業を中心に行なっており、高齢だがリタイアしても働く意欲の高い方のニーズに応える支援を行なっている。また、近隣の図書館に併設されている「かつしかエコライフプラザ」での日用不用品販売コーナーや喫茶コーナー「タッセル」での仕事や、従たる事業所での調理、配達等の仕事場もあり、幅広い活動が提供されている。利用者には月 4000 円の給料と、手当で等が支給されている。

一方で、高齢化によって身体機能の低下が生じており、月 1 回 P T による機能訓練等の支援が行われている。また、認知症の問題も見られてきている。集団としても、比較的障害の軽い高齢利用者と若い自閉症の利用者が混在しており、スペースのすみ分け等障害特性に特化した支援を模索している。

地域の中で、就労からリタイアした後の受け皿として周知されており、比較的元気な高齢の利用者の活動場所として機能している。

—事業所より—

■わたしたちのセールスポイント

・近くの図書館内のかつしかエコライフプラザにて日用不用品販売コーナー「ゆず屋」と喫茶コーナー「タッセル」を運営。キッチン Kiss・原町食堂にて給食調理、土曜日のサロン（夕食提供）を実施し、幅広い活動を提供している。

*平成 31（2019）年 4 月よりかつしかエコライフプラザの運営が法人内の別事業所に移っている。

■ 利用者の支援で工夫していること

・法人内のグループホーム利用者がほとんどで、日中と生活の場が同じ方が多いため、席配置等を工夫している。席を固定ではなく、その日の作業、活動内容、利用者の相性等で決めている。高齢の方が多いため、作業や活動はゆったりペースで行なっている。

■ 課題項目に対する状況や対応

利用者の高齢化	高齢であっても元気な人が多いが、ここ最近身体機能の低下や認知症の問題も見られてきている。若い利用者との集団作りも課題。
障害の重度・多様化	平成 30（2018）年 9 月に比較的障害が重い方々が新規事業所「シャングリラ」へ移動したことで現在は介助が必要な方が数名に減った。
送迎支援	現在 12 名の方が利用。車 3 台を使い、ピストンで送迎。シャングリラと共同で送迎を行なっている。
人材確保／ 人材育成	人材確保は法人全体として行なっている。 人材育成は、新人教育は OJT、新人研修は年 10 回実施。
利用者の確保／ 利用率の安定	法人内の相談支援事業所と連携している。 高齢の方が増えている事で、休み・入院、デイサービスの利用等が増え、利用率が下がってきている。通所が困難になってきた方に対しては、送迎車の利用を促している。
運営（事業継続のための取り組み）	平成 31（2019）年度からの取り組み ・毎週金曜日に余暇活動を行う事で、満足度を高める。 ・土曜日又は祝日に通所日を設け、余暇活動の充実を図る。 ・機能訓練等を日常的に行う事で機能維持に努め、継続した通所に繋げる。
外部評価の取り組み	3 年毎に第三者評価を受けている。 平成 30（2018）年度も実施している。

■ 地域とのつながり、連携のための取り組み

かつしかエコライフプラザでは地域の方が多く来店されるため、この活動に参加している方は関わりを持っている。ほぼ全員がグループホームで生活しており、地域の中で生きている。みなさんの中では地域の中に溶け込み、地域の方と仲良くしている方もおり、現在アンジュとしての地域との関わりに対して積極的に取り組んではいない。



自主製品の「しめ飾り」

■ 周辺地域の課題

かつしかエコライフプラザでの活動開始当初は、障害を持った方が店頭に出る事、従事する事に対して心無い言葉を受ける事もあった。その事に対して泣いてしまう利用者もいたが、活動を日々続けていく事でお客様の意識にも変化が生まれ、レジ操作に時間がかかる利用者に対しても「ゆっくりやっていいのよ。」と優しい言葉がけもしてもらえるようになった。よく来店されるお客様とも顔なじみになり、街中で会っても挨拶を交わす仲になった方も多くいる。

—伝えたいこと—

以前は、一般の会社で頑張って働いてきた方々が多く、仕事への意欲が非常に高い方達ばかりです。しかし、高齢化は進み作業効率の低下や機能低下は日々大きくなっています。働く事の意欲と機能維持を「生活リハビリ」の視点を持って支援し、皆さんが「アンジュにいつもでも通いたい。」と思ってもらえる事を目指しています。

事業所情報

所在地	東京都葛飾区立石 1-7-29
TEL/FAX	03-6905-9086 / 03-5670-7977
事業種別	生活介護
開所年	平成 20 (2008) 年 7 月
定員数/利用者数	定員数 60 人 利用者数 58 人 (平成 30 (2018) 年 9 月 1 日現在)
利用者の障害 (手帳別)	身体 6 人 療育 58 人 精神 1 人
利用者の障害支援区分	区分 4 : 16 人、区分 3 : 15 人、区分 2 : 11 人、区分 5 : 11 人、 区分 6 : 5 人
利用者の年齢	平均年齢 56.5 歳 65 歳以上 18 人

就労継続支援 B 型

日中支援センター 八兵衛・十兵衛

充実した日中活動を提供する

社会参加を目指す

—港町の産業を活かした仕事を通して、地域とつながり貢献する—

愛知県蒲郡市／NPO 法人楽笑

■事業所の特徴

愛知県蒲郡市の港町である三谷町に所在。日中支援センター八兵衛ではパン工房、十兵衛では地元の三河湾で水揚げされた魚を活かした干物を製造販売している。八兵衛から十兵衛までは 50m 程離れているが、利用者が近隣を歩き来する中で、近隣住民との挨拶や声かけがあり、地域に溶け込んでいる。最近では、定期的に子ども食堂やイベントを開催し、地域連携を積極的に行っている。



事業所の外観（八兵衛）



事業所の外観（十兵衛）

■利用者の状況

開所当時は知的障害の利用者が多かったが、最近では中途障害の利用者も増えてきている。特に高次脳機能障害の方は、受け入れ先が地域になかったこともあり、噂で広まり利用につながることもある。仕事内容は、一定の技術が必要なパン製造や干物製造が中心であり、自立度が高い知的障害の方が多いが、軽作業の作業は「どんな人でも過ごせる」作業として取り組まれており、多様な特性がある利用者も参加できている。

■活動内容

●年間総売上高（平成 29 年度年間の総収入）

12,632,341 円

●利用者平均工賃（平成 29 年度年間の平均月額）

17,171 円

●日中活動の内容

●生産活動の内容

- ・「パン工房」でのパンの製造や準備・販売
- ・片付けなど（立ち作業を基本としている）
- ・干物製造・梱包
- ・施設外就労 缶、ペットボトル、ビン、ゴミの仕分けなど
- ・車の部品の下請け作業
- ・施設内での清掃作業 など

■利用者の支援、活動等で工夫されている点

八兵衛（パン工房内）では立ち仕事が多く、ある程度自立した方を中心に作業を行っている。製造から販売、配達までをスタッフと利用者で行い、最近では農協や小学校、旅館等への販売や、地域で行われるイベント等にも声がかかり参加している。

八兵衛ではパンや焼き菓子の製造業務、梱包、店頭準備、道具等の洗浄や販売を主な仕事としている。（粉の測量やオープンスタッフ）。十兵衛では、市場等から魚を仕入れ、魚を開く、肝を取る、洗う、干すまでを行っている。

2か所とも、利用者のアセスメントから、仕事の能力や得意なことなどを確認し、できることを伸ばすことを大切にしている。最初は戸惑い、嫌がることもあるが、地道に繰り返し行うことと、働くことで給料をもらえるといった喜びと達成感、周りから賞賛されることでやりがいが変わり、その先に施設外就労、企業から就職の声が掛かり一般就労につながっていくという流れができています。

最近では就労系のサービスが近隣に増えている。以前に比べると精神障害の方からの相談のケースも増えている。

周辺地域は高齢化が進み、隣接していた魚市場や商店等が閉まってきている。地域とつながる点として、町の中に店舗を構えることで地域住民が通える場所になっている。社会参加としては地域へパンの販売に出かけ、色々な場所で地域住民と触れ合う機会がある。



十兵衛での仕事の様子

—事業所より—

■わたしたちのセールスポイント

- ・パン工房では、地の食材を使用したパンをはじめとしたおやつパンから惣菜パンまで取り揃えて店頭販売。また、イベント販売・学校の購買販売・旅館の朝食パン・保育園のおやつパンとして提供を行っている。
- ・干物製造では、水産業も障害のある方と団塊世代で担えるということを伝えることを目的として、旅館の朝食での提供、居酒屋での提供を中心に行っている。

- ・周りとは協力して働くことを意識して働くことを覚えるステップアップ先の作業場として、ゴミの分別を中心とした施設外就労を行っている。
- ・軽作業班として自動車系の部品を下請け作業として行っている。
- ・ひとつの作業にこだわらない ひとりひとりの できることやステップアップの目的にあわせての作業提案を行っている。

■ 利用者の支援で工夫していること

- ・障害種別にこだわらず、利用者が地域の一員として溶け込んでいような環境を作ることを大切にしている。お祭のコミュニティが根強くある町であることから、職員が地域の方（働く地域の職員も含め）と関係を築いていく（挨拶・町を知る）ことを大切にしている。
- ・パン工房、干物販売の場合はイベント出店などで声をかけてもらいやすい。パンのイベント販売の誘いは市役所・企業（市内に限らず、近辺市外）からは月に1回程度ある。
- ・地域のニーズとして、廃業しそうな豆腐屋さんやみかんやさんが声をかけてくれたこともあり、施設外就労などにつなげることを目指している。また地域に求められているまちづくり事業（イベント、高齢者サロン等）を行っていくことで、少しずつではあるが福祉のサービスを行っているところという認識を広げていくことができ、通所している利用者が過ごしやすい環境や理解に繋げていくことのひとつになっている。

■ 課題項目に対する状況や対応

利用者の高齢化	高齢化が進んでおり、最高齢は62歳。仕事という概念だけでは体力・気持ちも追いつかなくなっている
障害の重度・多様化	立ち上げ当初からいた働き手となる主に知的障害の方は一般就労につながった。現状は、高次脳機能障害、精神障害など一つの作業に様々な障害のある方がいらっしゃる。トラブルが起きる場合もあり、支援者のフォローが大事。多様化に対する学びや支援者の育成が課題である。
利用者の工賃	工賃規程を決めている。各事業から出しているため差があることが課題。利用者の工賃は7,000円から30,000円。
送迎支援	基本的には自主通勤をお願いしているが、送迎のニーズは高い。就労の報酬（送迎加算）では整備できない状態である。
人材確保／人材育成	新卒の確保は応募も少なく、確保が難しい。中途もハローワークから来ることもあるが見通しが持ちにくい。マイナビに応募するなどし、インターンに繋がる学生は増えた。そこからのフォローが取り組み中ではある。
利用者の確保／利用率の安定	利用率は、通院などで休む方も多いため土曜日の利用日を設けているが、内容とニーズ（仕事だと嫌だという方もいたり、レクリエーションにするとお金がかかるなら嫌だという方もいたり、家族の都合で来られないなど）の合わせ方に苦戦している。4年ほど前から同事業者が増えはじめ、同じような作業内容（特に下請け作業）、単独型が増えている。利用者のニーズとしては精神障害の方が増えてきている。

運営（事業継続のための取り組み）	工賃と作業内容（展開）も含めて課題である。
外部評価の取り組み	現在特に行っていない。

■ 地域とのつながり、連携のための取り組み

・地域の中にある事業所で、行き来も多い。地域の方は普通に仕事をしている方として見てくれている。職員自身が地域のコミュニティを理解し、ここで働いている人として理解してもらうことが大事なのではないかと思う。特に、パン屋、干物屋として店舗を持っていることで、地域の顔になっていくことを感じる。この町で地域にもメリットのある活動を行う（こども食堂・シンポジウム・ぎよぎょうランド）ことで、地域に「楽笑＝福祉のサービスをやっている」という理解を得られている。利用者は、販売を通して地域に出ることや、漁港清掃を行うことで社会での役割を担っている。



■ 周辺地域の課題

- ・高齢化が進んでおり 若者が町から出て行っている（働き手が少ない）
- ・担い手不足

— 伝えたいこと —

楽笑がある三谷町というコミュニティを理解していくことが、支援をしていく上で大切なことだと感じています。挨拶だけで終わらない関係性が地域の方とできた時に、この地域のコミュニティの温かさを感じます。その中で通所先としての居場所があることに誇りを持ち、地域の方も、利用者さんも、ともに過ごしやすい場所になれる tara と考えます。

事業所情報

所在地	愛知県蒲郡市三谷町港町通 57-12
TEL/FAX	0533-66-0291 / 0533-66-0292
事業種別	就労継続支援 B 型
開所年	平成 19（2007）年 2 月設立 平成 19（2007）年 4 月 地域活動支援センター 平成 20（2008）年 10 月 就労 B
定員数/利用者数	定員数 20 人 利用者数 14 人（平成 30（2018）年 9 月 1 日現在）
利用者の障害（手帳別）	身体 4 人 療育 11 人 精神 2 人
利用者の障害支援区分	区分なし：11 人、区分 2：2 人、区分 1：1 人
利用者の年齢	平均年齢 38.7 歳 65 歳以上 0 人

ヴィ長屋

—高齢者率58%の団地に食事の提供。地域の課題に役立つ実感を一

東京都北区／社会福祉法人ドリームヴィ

■事業所の特徴

東京都北区の桐が丘団地のなかに所在。運営主体である法人は、地元の特別支援学校の卒業生を応援する会を土台として、平成 15（2003）年より事業を開始している。桐が丘団地は高齢者率 50%を超え、団地内の商店街は軒並み閉店してシャッターが下り、高齢の住民が買い物にも行けない、食事をするにも外食する場所がないという孤立した状況にあった。そういった地域の課題に対して、商店街の理事長に相談を持ちかけて空き店舗を賃借して設立したのが「ヴィ長屋」である。地域の住民が立ち寄りやすい食事処となることを目指し、カフェレストランの事業を実施。店舗での食事の提供とあわせて、団地の高齢住民への夕食の配食と見守りサービスを行なっている。障害ある利用者が地域の高齢者に対してサービスを提供する仕組みを作り、障害ある人たちが地域に役立つ実感をもちながら働けることを大切にに取り組んでいる。

■利用者の状況

定員 20 人、現在利用者 20 人で、大半が知的障害者。一般就労をリタイアした人や、他の障害者支援事業所を退所後利用している人が多い。最高齢は 71 歳。



「カフェレストラン長屋」

■活動内容

●年間総売上高（平成 29 年度年間の総収入）
7,121,649 円
●利用者平均工賃（平成 29 年度年間の平均月額）
14,500 円
●日中活動の内容
●生産活動の内容
・カフェレストランでの食事作り、食事の提供
・団地の住民に夕食の配食サービス
・高齢者活動施設の清掃 ・団地内ゴミ集積所清掃等

■ 利用者の支援、活動等で工夫されている点

仕事の中で地域とのつながりを大切しており、利用者のやりがいにもつながっている。近年は一般就労をされて定年近い年齢になってから初めて福祉サービスを利用する方が増えてきている。

配食サービスは1日10食で、現状では職員が付き添って支援を行なっている。桐ヶ丘団地のなかでの外出が困難な高齢者への夕食配食やお弁当箱の回収に合わせて見守りサービス等を活動の中心として取り組んでいる。



「桐ヶ丘サロンあかしや」

また、地元の地域包括支援センターを運営する社会福祉法人、社会福祉協議会、行政と連携し、地域の課題に対して地域のために一緒にできることを模索し、地域住民から要望が多かった「いつでも気軽に立ち寄れる場所」を作るため、地域公益活動として平成28（2016）年に「桐ヶ丘サロンあかしや」を立ち上げている。「桐ヶ丘サロンあかしや」は、ヴィ長屋の近くにあり、両者ともに地域住民が気軽に立ち寄れる場所として地域に根付いている。

—事業所より—

■ わたしたちのセールスポイント

- ・老朽化の進んだ大規模団地である桐ヶ丘団地の一角でカフェレストランを運営。地域で外出が困難な高齢者が立ち寄れる場所として、地域に貢献することを目指している。また、高齢者宅に夕食の配食を行い、見守りの支援も行っている。
- ・提供する食事は、栄養バランスのよい定食や和洋スイーツなど、からだにやさしい物にこだわっている。

■ 利用者の支援で工夫していること

- ・主に知的障害がある利用者が、地域のなかで役割を担って仕事ができることを大切にしている。
- ・就労長く続け、定年の状態になった後（シルバーの時）、まだ仕事がしたい、通いたいという利用者のニーズに応える支援を行っている。
- ・障害のある人がいつまでも元気で活躍してもらいたいという理念のもと、シルバー時代になった人たちにも地域に役立つ実感を得ながら生きがいややりがいのある仕事や活動ができることを目指している。



桐ヶ丘団地の様子

■ 課題項目に対する状況や対応

利用者の高齢化	長い期間を施設で過ごされて高齢になる利用者以外に、最近では、長い期間一般企業で働いた後、(シルバーの時を)福祉サービスを利用される高齢利用者が増えて来たと感じている。その対象者を考えた制度の仕組みが必要だと考えている。
障害の重度・多様化	定年の状態後の方たちには、少しでも長く元気で過ごしていける様な仕組み、シルバー人材センター風のもの S 型事業? を B 型に接する形で合わせられたらと考えている。(S は、シルバー・シニア・スペシャルというイメージ)
利用者の工賃	工賃と報酬の連動により、出勤日数の少ない利用者の受入をどう考えればよいか? 一般就労出来る利用者を送り出す事を躊躇する事にならない為には、などを考えさせられている。
送迎支援	現時点では、実施していない。
人材確保/ 人材育成	短時間勤務(シルバー・パート・専門職等)の積極的採用、配置をおこないつつ若い世代の件費確保や勤務・研修への財源を目指している。
利用者の確保/ 利用率の安定	定年後の人たちが就労支援センター等に「これからどうしたら良いか?」の相談にみえる。その方たちに「B 型に通い福祉を利用出来る様に勧めている。
運営(事業継続のための取り組み)	公的な仕事を担っていける道を地域の中で役立てる仕事を作り出す事で事業を継続的に運営出来ればと考えている。
外部評価の取り組み	3 年毎の第三者評価は受診している。 外部からの見学、取材等を可能な限り受けて評価・感想・刺激を得られる様にしている。

■ 地域とのつながり、連携のための取り組み

・地域包括支援センターや社会福祉協議会とも連携し、「桐ヶ丘サロンあかしや」を運営。地域活性のための新しい街づくりを進めている。



■ 周辺地域の課題

- ・桐ヶ丘団地は赤羽駅から徒歩約 20 分、高齢化が進む地域のなかで、特に高齢者が多く居住している。団地の商店街はほとんどの店でシャッターがおり、買い物も困難な状況。
- ・地域の高齢者が孤立しがちであり、気軽に通えたり、おしゃべりができるような場所が必要。

—伝えたいこと—

障害のある人たちも一緒に生きていくのに、地域に出て仕事する中で共生社会を目指していきたい。

企業就労を長く続け、定年の状態になった人たちが、地域に戻って、地域で必要としている事を仕事として、少しでも元気に過ごして欲しい。その為にこれまでの B 型事業所に合わせ S 型（シルバー・シニアをイメージ）事業を作り出せないかと考えています。

事業所情報

所在地	東京都北区桐ヶ丘 1-9-4-2
TEL/FAX	03-5948-4300 / 03-5948-4300
事業種別	就労継続支援 B 型
開所年	平成 27（2015）年 4 月
定員数/利用者数	定員数 20 人 利用者数 20 人 (平成 30（2018）年 9 月 1 日現在)
利用者の障害（手帳別）	身体 1 人 療育 18 人 精神 1 人
利用者の障害支援区分	区分なし、区分 3：7 人、区分 2、区分 3：3 人
利用者の年齢	平均年齢 47 歳 65 歳以上 3 人



おいしい食事でお待ちしています！

就労継続支援 B 型

充実した日中活動を提供する

社会参加を目指す

いにしき

—地域の課題の解決を目指し、仕事と社会参加の場を創出する—

大阪府泉南郡岬町／NPO 法人 Re-Live

■事業所の特徴

大阪府の最南端である岬町に所在。岬町は大阪府南部の泉南地域にある人口約 17,000 人の町で、なかでも岬町は基幹産業がなく、また住民の高齢化も顕著であり、それに伴い管理されない休耕地や空き家が急増している。これらの課題を解決することを目的に、地元住民を中心に「NPO 法人 Re-Live（リライブ）」が設立された。休耕地や空き地などを管理し、有効活用するためのリモコン農園や貸し農園などの事業を行っており、それらの活動の一環として障害者の働く場を設けている。障害者就労継続支援事業所にいしきは、就労継続支援 B 型と就労継続支援 A 型の多機能型として、地域の課題に対応した仕事や活動を提供している。



休耕地を活用した貸し農園

■利用者の状況

定員は 10 名。精神障害の利用者が中心で、平均年齢は就労 B 型は約 40 歳。就労 B 型の利用者は、週 5 日出勤している人は 2 人、週 4 日は 1 人、2～3 日は 4 人と、それぞれの働き方に応じて支援を提供している。

■活動内容

●年間総売上高（平成 29 年度年間の総収入）

6,456,551 円（うち B 型売上：1,698,345 円）

●利用者平均工賃（平成 29 年度年間の平均月額）

21,906 円

●日中活動の内容

●生産活動の内容

- ・貸農園の整備・管理業務
- ・農作物の生産・販売
- ・宿泊施設の清掃・管理業務
- ・介護施設等の清掃業務
- ・請負
- ・イベント業務

■利用者の支援、活動等で工夫されている点

・働くことをとおして、利用者が地域とつながりを持ち、地域への社会参加を実現している。また、高齢化にともなう地域の諸課題に対して、障害のある利用者の仕事や活動がその解決のために貢献しており、地域の活性化にもつながっている。

・利用者一人ひとりのアセスメントをしっかりと行い、働くために必要なスキルや環境を把握し、事業所で働くことのサポートや、ニーズに応じて一般就労に向けた支援を行っている。

—事業所より—

■わたしたちのセールスポイント

・パソコンやスマホからの操作で野菜の栽培や収穫ができる遠隔農業『リモコン農園』の方式で、地域の休耕地や耕作放棄地を有効活用している。実際の栽培作業は障害のある利用者が担い、障害のある人たちの就労支援や地域への貢献につなげている。

・高い工賃を保障することも大切だが、ライブで技術を身に付け自信をつけて、就職につながることを目標としている。



古代米の田植えイベント

■利用者の支援で工夫していること

・アセスメントシートを活用して生活面・作業面の現状のアセスメントし、本人と面談を実施している。面談の中で、事業所側からの現状評価を伝えた上で、本人の自己評価をヒアリングし、最終評価と自分自身で取り組む課題設定を実施している。

■ 課題項目に対する状況や対応

利用者の高齢化	2名の利用者が体の不調（膝が痛い等）の理由で業務に従事できていない。室内での作業を中心に実施してもらっている。
障害の重度・多様化	・精神障害の利用者と自閉スペクトラム症の利用者への支援方法が違い、事業所内で統一した支援方法をとることが出来ていない。現在は、個別に対応しているが、利用者間での理解が得られていない事がある。
利用者の工賃	より高工賃を支払う為、昨年より新たな業務（宿泊施設の清掃）を受託し工賃の引き上げを行っている。 （平成 29 年（2017）度平均工賃 21,906 円→ 平成 30 年（2018）度平均工賃 24,359 円 ※平成 30（2018）年 4～12 月実績）
送迎支援	自宅までの送迎は行っておらず、自宅付近の集合場所までは自力通勤を実施してもらっている。
人材確保／ 人材育成	・有資格者の確保が難しい為、事業展開をすることが出来ていない。 ・理事が専門学校で講師を実施しているため、授業の中で活動紹介の時間を取り学生の確保を実施している。 ・育成に関しては、職員研修の開催（法人全体：1 回／月・各事業部：1 回／月）と、外部研修や資格取得の為の講習受講を促している。
利用者の確保／ 利用率の安定	利用が安定しない利用者には、欠勤の連絡があった際にすぐに訪問するようにしている。（風邪などの明確な理由以外）
運営（事業継続のための取り組み）	事業の性質上、撤退することが出来ない為、考えうる努力は実施している。
外部評価の取り組み	実施していない

■ 地域とのつながり、連携のための取り組み

- ・農場を活用した町づくりイベント（田植え・作付け体験等）を実施し、地域の方たちとの交流を図っている。また、地域で開催されている食事会（民生委員主催）に定期的に参加している。
- ・事業所内・地域内での仕事だけではなく、公共交通機関を使つての施設外就労先への出勤等、一般就労に向けた準備を行っている。

■ 周辺地域の課題

- ・少子高齢化が進行しており、高齢化率は 36%となっている。また、基幹産業がないため雇用喪失が顕著である。
- ・障害福祉施設が町内に乏しく、福祉サービスを利用したことがなく自宅にこもりがちな人も多かった。

—伝えたいこと—

利用者や社会における就労継続支援事業所の役割を果たす為、当事業所では『働く』ことに力を入れています。また、働く事が地域の抱える課題解決につながっており、地域住民から『あなたたちのおかげで町が良くなったよ』と言ってもらえ、利用者が暮らしやすい地域をつくる為に活動しています。

利用者の仕事を作ることと支援の実施という 2 つの事を同時にしなければいけない就労支援は非常に難易度の高い事ですが、プロフェッショナルとしての自覚と責任を持って頑張らしましょう。

事業所情報

所在地	大阪府泉南郡岬町淡輪 1774
TEL/FAX	072-477-4420
事業種別	就労継続支援 B 型 / 就労継続支援 A 型 (多機能型)
開所年	平成 25 (2013) 年 10 月
定員数 / 利用者数	定員数 10 人 利用者数 8 人 (平成 30 (2018) 年 9 月 1 日現在)
利用者の障害 (手帳別)	身体 0 人 療育 2 人 精神 8 人
利用者の障害支援区分	区分なし : 8 人、区分 1、区分 2 : 2 人
利用者の年齢	平均年齢 40 歳

就労継続支援 B 型

充実した日中活動を提供する

社会参加を目指す

あすなるホーム

— 震災を乗り越えて。働ける、通える場所があることを大切に —

岩手県陸前高田市 / 社会福祉法人燦々会

■ 事業所の特徴

岩手県東南部の陸前高田市に所在する就労継続支援 B 型と就労移行支援の多機能事業所。定員は就労 B 型が 27 人、就労移行が 6 人。障害種別は、利用者の大半は知的障害であるが、精神障害の人も増えている。区分 4 が 5 人、区分 5 が 3 人と比較的障害が重い方も受け入れている。生産活動がメインで、菓子製造が主となっている。利用者の自治会活動も積極的に推進している。

平成 23 (2011) 年の東日本大震災の際は、当事業所はやや高台に所在していたため全壊とはならなかったが、当日自宅で休んでいた利用者 2 人が被害にあった。利用者、職員の家族も被害にあった方がおり、また多くの利用者が自宅を失った。陸前高田市は市の中心部が壊滅したため、現在大規模な再建工事を至る所で行なっている。また、行政主導で障害者を含めた地域づくりを推進しており、あすなるホームの自主製品がふるさと納税の返礼品に採用されたり、市長と語る会を毎年実施するなど交流を深めている。震災後は周辺の企業が営業できなくなったことから利用者の生産活動が滞った時期があったが、行政を含めた地域との連携によって、現在は約 2 万円の工賃を保障している。

■ 利用者の状況

20 代、30 代が半数以上いるので活発である。知的障害の方がほとんどで、明るく新しいことにも取り組んでいこうとするパワーがある。(手話コース、アート教室、さんさ踊りなど)



新しくできた道路からの入り口

■ 活動内容

● 年間総売上高 (平成 29 年度年間の総収入)

21,348,138 円 (うち就労 B 型売上 : 19,000,799 円)

● 利用者平均工賃 (平成 29 年度年間の平均月額)

19,052 円

● 日中活動の内容

● 生産活動の内容

1 菓子製造 2 オリジナル製品製造 3 受託作業 4 販売

(手作りのお菓子の製造販売、海産物の加工販売、EM ほかしの製造販売及び EM 商品の販売、民間事業所などから委託された作業、施設外就労など)

■ 利用者の支援、活動等で工夫されている点

仕事を支援の中心とし、工賃の向上のための努力を日常的に行なっている。地元の特産品である「北限のゆず」を活用したぶりんタルト、チーズケーキが市のふるさと納税の返礼品に採用され、工賃の保障につながっている。

地域とのかかわりでは、あすなるホーム祭を毎年開催。また、地域の行事への参加や清掃活動などを積極的に行ない、地域とのつながりを作っている。



仕事の様子（ドーナツ作り）



「たかたのゆめ」という地元の米粉を使ったぶりんタルト

—事業所より—

■ わたしたちのセールスポイント

- ・利用者が楽しめる行事を増やす（旅行、お祭り、クラブ活動（毎月）、わくわくデーなど）
- ・利用者の自治会をできるだけ活発にできるように支援する（行事での取り組み、学習会など）
- ・就労を目指す人の希望に応えるための支援を行っている。平成 28（2016）年度は 3 人、平成 29（2017）年度は 5 人、平成 30（2018）年度は 3 人就労につながっている。



地元特産のワカメの加工作業

■ 利用者の支援で工夫していること

- ・販売先や利用者の就労先等に受託できる作業がないか聞く。
- ・仕事依頼の話があった時は積極的に聞き、まず職員が作業してみる
- ・その人の障害、こだわり、特性に合わせた作業を組み立てる。
- ・精神障害の方は特に、調子を崩した時にできるだけ早い対応をする。



地域での販売の様子

- ・利用者の活動の場（自治会や行事）での本人の考えを述べられるように支援している。
- ・健康であるための日々の声かけや健康診断の他、保険師の健康指導や歯科検診等も行なっている。

■ 課題項目に対する状況や対応

利用者の高齢化	ずっと通所していた人が高齢のため身体機能が衰えたり、認知症状が出たりしている。一般の人より早く、進行も速いように感じる。
障害の重度・多様化	精神障害の方の病名も症状も様々で、どのように理解し対応したらよいか、専門家に話を聞きながら日々すごしている。
利用者の工賃	<ul style="list-style-type: none"> ・できれば月3万円を目指したいところではあるが、四苦八苦している。 ・製造したものはできるだけ売り切れるように訪問販売に力を入れている。 ・毎月の工賃の他、8月、12月、3月に特別工賃を出すことによって、利用者の意欲アップにつなげたい。
送迎支援	町からも離れているし、公共交通機関が少ないので、送迎がなければほとんどの人は通所できなくなる。絶対必要。
人材確保／ 人材育成	<p>利用者に合わせていろいろな作業があるので職員は多い。ハローワークに求人を出し面接等で決める。（学校を卒業してすぐ入った人は2名のみ）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他職種を経験してきた人が多いので、職員研修には力を入れている。（施設外研修の他、施設に講師を招いて全体研修を行う） ・資格を取る人への補助をする。
利用者の確保／ 利用率の安定	<ul style="list-style-type: none"> ・相談支援事業所や支援学校からの依頼（ほとんど見学、体験、実習をしてから） ・精神障害と身体障害の方の利用率が低い（週2～3回）
運営（事業継続のための取り組み）	<ul style="list-style-type: none"> ・就労B型は特に今回の改正で収入減があり、毎月はらはらしている。 ・大きな出費をひかえている。
外部評価の取り組み	第三者評価は実施していないが、毎月末に利用者から職員の対応の評価をもらい、年度末には家族からも評価をいただいている。

■ 地域とのつながり、連携のための取り組み

- ・あすなるホーム祭では、保育園児に演技をしてもらったり、地域にチラシを回してきてもらう。
- ・クラブ活動ごとに地域に出てボランティア活動をする（公民館や神社等の掃除や、道路等のごみ拾い）

- ・地域の行事に参加する
- ・市の福祉計画の策定委員やワーキングのメンバーになる
- ・市長と語る会を毎年 2 回ずつ行う

■ 周辺地域の課題

- ・道路の工事中や高台地の建設工事が多いので安全に気をつけている。
- ・公共交通機関を利用して買い物に出にくい人が多い。



近くに建設中の市立高田小学校。
(平成 31 年秋完成予定)



津波被害を受けた市立気仙中学校
(平成 30 年度より市立高田第一中学校に統合)

—伝えたいこと—

法人の理念を「笑顔さんさん」とし、ここを利用しているすべての人に燦々とお日様と愛情が降り注ぐような支援を心がけている。一般就労を目指す人には、個別の訓練も取り入れながら支援している。

事業所情報

所在地	岩手県陸前高田市高田町字東和野 37-1
TEL/FAX	0192-55-2978 / 0192-53-1336
事業種別	就労継続支援 B 型 / 就労移行支援 (多機能型)
開所年	平成 16 (2004) 年 4 月 平成 18 (2006) 年 10 月
定員数 / 利用者数	定員数 33 人 利用者数 44 人 (平成 30 (2018) 年 9 月 1 日現在)
利用者の障害 (手帳別)	身体 3 人 療育 33 人 精神 8 人
利用者の障害支援区分	区分未判定 : 26 人、区分 3 : 6 人、区分 4 : 5 人
利用者の年齢	平均年齢 37.7 歳 65 歳以上 2 人

なのはな園

—海に囲まれた離島での生活を支える。通所は海を渡って送迎支援—

鹿児島県大島郡瀬戸内町／社会福祉法人幸喜会

■事業所の特徴

鹿児島県の離島である奄美大島の南岸から数十キロ離れた加計呂麻島（人口約 1200 人）に所在している障害者支援施設。元々奄美本島の特別支援学校に通っていた児童の成人後の居場所を作ることを目的として、平成 10（1998）年に設立された事業所であり、理事長が所有していた加計呂麻島の土地を活用したため現在の所在地となっている。事業所が奄美大島からさらに離れた島に所在するという立地から、通所の利用者を対象に「船での送迎支援」を日常的に行なっている。

海と山に囲まれた自然豊かな環境のなかで、ゆったりとした生活を送ることを大切に日々のプログラムが設定されている。一方で、離島ならではの課題もあり、特に島での医療機関がなく、船で本島まで移動が必要である。しかし、台風等の状況によっては船が出ないため、緊急時の対応が課題となっている。また、同様に職員も通勤に支障が出るため、台風の時期は予報を常に把握しながら支援体制を組んでいる。

■利用者の状況

利用者は定員 50 人に対して現在 44 人で、全員知的障害がある。開所当時に特別支援学校を卒業して入所した利用者が多数おり、そのため 40 代の利用者が多い層となっている。平均年齢は 51 歳で、65 歳以上は 9 人いる。障害支援区分は区分 6 が 20 人、区分 5 が 12 人で重度の方が多い。

出身地域は、加計呂麻島は 4 人で、奄美本島や沖永良部島、沖縄などからも利用者を受け入れている。



事業所の外観

■活動内容

●日中活動の内容

- ・作業棟活動（刺繍・塗り絵）、段ボールちぎり、ストレッチ、園外ウォーキング等
- ・畑作業（マンゴー、みかん、野菜などを栽培）

■ 利用者の支援、活動等で工夫されている点

通所利用者のほとんどが奄美の本島在住のため、本島から加計呂麻島までの行き帰りは船を使用し、職員が付き添い送迎している。日中は陶芸作り等の作業や、近隣の畑を利用した作業などを行っており、事業所が海沿いにあることを活かし、海水浴や釣りなどを余暇活動に取り入れている。

豊年祭など集落の行事の参加や民家の草取り作業など積極的に行ない、地域とのつながりも大事にしている。ただ、加計呂麻島自体が人口減少、過疎化、高齢化が顕著であり、地域への参加の幅は限られており、特に仕事はほとんどないため、島での生産活動は困難である。離島である奄美のなかでも、中心部の奄美市と南の瀬戸内町では地域格差があり、奄美市は障害者支援事業所は比較的多くあり、就労継続支援 A 型や放課後等デイサービス等も複数運営されている。一方瀬戸内町ではほとんど資源がないため、さらに離島にあるなのはな園が受け皿となっている状況である。毎日の船での送迎や余暇活動、イベント参加などで本島とのつながりを保っているため、事業所の存在が地域住民にも周知されている。

課題としては、所在する加計呂麻島に医療機関がないため、受診の際は奄美大島本島まで船で移動が必要である（約 10～15 分ほどかかる）。船の時間や海の状況に左右されるため、緊急時の通院の際に課題があり、特に台風の時期の対応が困難である。



船での送迎支援



船着き場から棧橋を渡って事業所に向かう

—事業所より—

■ わたしたちのセールスポイント

- ・海が見えて静かな環境のなかで、ゆったりと過ごせる環境があること。
- ・活動は、毎週木曜日に陶芸づくり、畑作業などを行っている。月 1 回ドラムサークルを実施。

■ 利用者の支援で工夫していること

・障害の程度に合わせて活動内容を分けたり、好きな事を中心にして頂くようにしている。本人の意思を尊重して無理強いはないよう心がけている。



少し離れたところにある作業棟



利用者の陶芸作品

■ 課題項目に対する状況や対応

利用者の高齢化	高齢者や通院の多い利用者のみなさんを病院の近いグループホームへ移行（グループホームを設置予定）
障害の重度・多様化	障害特性はさまざまであり、加齢にともない重度化しつつある。
送迎支援	通所利用者さんは、奄美大島本島古仁屋港から通勤船に乗船して頂き職員と共に通園している。
人材確保／ 人材育成	ハローワークに登録し、人材の確保に努めている。人材育成については、外部研修等を利用し、中堅職員を育成しつつある。
利用者の確保／ 利用率の安定	特別支援学校、相談支援事業所との連携により対応している。
運営（事業継続のための取り組み）	現在の児童発達支援事業所ここ（児童発達支援・放課後等デイサービス、平成 30（2018）年 10 月より保育所等訪問を開始） 平成 31（2019）年 1 月より相談支援事業所つなぐを設置。事業の継続というよりは、利用者また地域の必要性に伴い開設。 また、共同生活援助事業所の開設に向けて施設の補助金を申請中。
外部評価の取り組み	現在検討中。

■ 地域とのつながり、連携のための取り組み

- ・集落行事への参加（豊年祭・集落作業）
- ・民家の草取り作業や月 1 回のバザー出店

■ 周辺地域の課題

- ・障害者の理解の浸透。（理解して頂きつつも不条理な行動に対して集落住民の怒り、不満の対応等）

—伝えたいこと—

豊かな自然環境のなかで「働く場」「楽しむ場」「安心して暮らす場」を提供しています。

事業所情報

所在地	鹿児島県大島郡瀬戸内町勝能 887
TEL/FAX	0997-73-2000 / 0997-76-0393
事業種別	障害者支援施設 生活介護
開所年	平成 10（1998）年 7 月
定員数/利用者数	定員数 50 人 利用者数 44 人 (平成 30（2018）年 9 月 1 日現在)
利用者の障害（手帳別）	身体 12 人 療育 44 人 精神 0 人
利用者の障害支援区分	区分 6：20 人、区分 5：12 人 区分 4：9 人
利用者の年齢	平均年齢 51 歳 65 歳以上 9 人



平成 30 年度厚生労働科学研究費補助金
(障害者政策総合研究事業 (身体・知的等障害分野))

障害者の福祉的就労・日中活動サービスの質の向上のための研究

生活介護事業所・就労継続支援 B 型事業所
実践事例集

平成 31 年 3 月

編集・発行 独立行政法人国立重度知的障害者総合施設のぞみの園
〒370-0865 群馬県高崎市寺尾町 2120 番地 2
TEL 027-325-1501 FAX 027-327-7628
URL <http://www.nozomi.go.jp>